

まなぶ・くらし・たのしむ 横須賀市市民大学

提 言



令和6年(2024年)3月

横須賀市社会教育委員会議

目 次

はじめに	1
1 市民大学とは	3
(1) 市民大学開設の経緯	3
(2) 市民大学の役割	4
2 市民大学の現状と課題	5
(1) 現状	5
(2) 課題	13
①受講者の傾向	13
②講座の周知と認知度の向上	16
3 市民に広く認知され、参加しやすい市民大学へ	18
(1) 「新たな層」へのアプローチと将来の受講者の獲得	19
(2) 情報発信の工夫	22
(3) 学びへのニーズを捉える	24
(4) 学びの入り口として	28
おわりに	32
資料	
1 社会教育委員名簿	34
2 社会教育委員会議審議経過	35
3 用語解説	36
4 参考資料	39
(1) 令和4年度「第46回横須賀市市民大学講座のまとめ」	
(2) 令和3年社会生活基本調査 生活時間及び生活行動に関する結果 結果の概要	
(3) 社会生活基本調査 調査結果 令和3年社会生活基本調査 神奈川県の結果 令和3年社会生活基本調査—神奈川県の概要	
(4) 統計トピックス No.132「統計からみた我が国の高齢者」令和4年9月18日	
(5) 市民大学10年のまとめ抜粋（序文及び第I章市民大学のまとめ1. 市民大学の開設）	

はじめに

横須賀市の市民大学は、昭和 52 年の開設以来 50 年近くの歴史を持っている。現在、横須賀市生涯学習センター（愛称：まなびかん）を拠点に、指定管理者である公益財団法人横須賀市生涯学習財団が様々な分野にわたる講座を企画し、開催している。

令和元年度の終わり頃から、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、人々が集まり顔を合わせて活動することが困難となり、社会のあらゆる分野で活動を自粛するという未曾有の状況に追い込まれていた。

本市においても、社会教育施設をはじめとして人々が集まる施設は軒並み休館を余儀なくされ、一時的に利用が再開されても再度休館するというような不安定な状況が続いていた。

生涯学習、なかでも社会教育の分野では、これまで大切にしていた人々が集い顔を合わせて行う活動が制限を受けたことにより大きな打撃を受けた。自主的な学習活動を行っていた団体やサークルも、自粛による活動休止からそのまま解散をすることになったところもあると聞き及んでいる。

令和 3 年度頃からは、徐々に新型コロナウイルス感染症への対処法も見え始め、密閉空間、密集場所、密接場面のいわゆる「三密（さんみつ）」を避け、マスク着用や消毒、施設の換気の徹底、施設定員の調整やパーティションを用いるなどの様々な工夫も行いながら、「新しい生活様式」を模索し、徐々に対面や集合での活動が再開されていった。

また、活動自粛の期間中には、人々が接触することなく受講することができる Zoom 等を用いたオンラインでの講座や講演会が、学習・活動スタイルの一つとして注目され、広まっていった。

本市の市民大学も新型コロナウイルスの影響を受け、平成 30 年度の延べ参加者数 23,755 人に対して、感染症拡大が本格化した令和 2 年度は 30 講座、延べ参加者数は 7,053 人、令和 3 年度は 56 講座、延べ参加者数は 16,526 人という結果であった。

令和 4 年度に入り日常を取り戻しつつある状況の中で、生涯学習センターで

は、市民大学に受講者を呼び戻すべく様々な工夫を凝らし、従来からの平日昼間の講座、社会人の方も受けやすい土日や夜間の講座に加え、オンライン講座にも取り組みながら、年間 77 講座を開講した。その結果、延べ参加者数は 24,612 人と過去最高となった。

行動制限が緩和され、人々の学びや活動に対する欲求の高まりにうまく応えられたことが、数字に表れたとも考えられる。

一方で依然、課題も抱えている。「市民」大学という名称だが、受講者が特定の年代に集中する傾向があり、受講者の中心年代層は 70 代、次いで 60 代、80 代と続き、50 代以下は少ない。このような受講者の年代層の傾向から、市民大学は高齢者だけものと認識されているのではないだろうか。

「人生 100 年時代」といわれる超高齢化社会では、引き続き、今まで以上に現在の受講中心層である高齢者への働きかけは重要である。

しかし、現在の受講者層以外にも幅広く市民が参加する、名称どおりの「市民」大学となるためには、どのようなことが考えられるだろうか。このような課題をもって今期の審議テーマを決定した。

1 市民大学とは

(1) 市民大学開設の経緯

市民大学開設以前は、公民館や現在の生涯学習課の前身である社会教育課で、成人学校、婦人学級、高齢者教室等を実施し、その内容は初歩的、入門編的な講座が多かった。

しかし、市民から「より高度な内容のものを」という要望が上がり、それに応える形で、昭和 52 年度に大学や短期大学の教養課程と同程度の内容を備える市民大学を開設し講座を実施した。長期にわたる専門的な学習ができる学級形式のコース学習と、コース学習に参加できない人を対象にした大集会学習（講演会形式）や集中講座（夏期講座）といった単発の講座に分け、コース学習は 3 コースを設置、年間 20 コマといった長期講座を開催し、学びの機会を提供してきた。

当初は横須賀市の文化会館・図書館・博物館などを会場として講座を実施し、受講料は無料であった。その後、受益者負担の考え方を取り入れた受講料の有料化、そして平成 13 年 1 月 4 日には市民大学の拠点となる横須賀市生涯学習センター（愛称：まなびかん）^{注1}が開館し、指定管理者制度の導入などを経て、現在では幅広い分野にわたる内容で年間 50 講座以上、コマ数にして 400 以上の学びの場を提供し続けている。

(2) 市民大学の役割

現在、本市では、環境に関する部署で実施する環境学習、保健所での健康に関する講座などの例に見られるように、それぞれの部署で、その業務に関連する専門的な内容に特化した啓発講座を数多く開催している。また、それ以外にも市内や近隣市町での民間カルチャーセンター、大学などでの生涯学習講座等もあり、市民大学開設当初に比べると学びの選択肢が増えている。

市民大学では、大学等の教養課程レベルの講座内容をベースに、学ぶ楽しさに気付いてもらったり、様々な地域課題や現代的課題へ気づくきっかけを提供したりするなど、積極的に学びの場を提供してきたが、それは横須賀市全体の社会教育、生涯学習の一翼を担っているということであり、当然のことながら市民大学で学びのすべてが完結するわけではない。市民大学を受講し、その後、より深く学びたい、別の学びにも進みたいという市民に向けて、より広い、より深い学びの世界へ続いていく入口や道標（みちしるべ）としての役割もある。

コラム 1

【生涯学習センターの市民大学講座とコミュニティセンター^{注2}の講座の違いは？】

生涯学習センターでの市民大学講座とコミュニティセンターで実施する講座には概ね以下のような違いがある。

コミュニティセンターでは、趣味や実用講座を中心とし、1講座当たりのコマ数が少なめで期間が短いものが多く、コンパクトな講座を年間に複数実施している。逆に、1講座のコマ数が多く、数か月にわたるような長期間の講座は少ない。

これに対し、生涯学習センターでの市民大学講座は、開設のきっかけが市民からのより高度な内容を求める要望であったことを反映し、大学や短期大学の教養課程の講義レベルの高度な内容の講座を多く実施している。

講座の開催期間も、前期講座、後期講座のように年間や年度の上半期、下半期を通じたコマ数の多い長期講座を基本としながら、1回限りの講座やコマ数が少ないコンパクトな講座も実施している。このように双方が少しずつ違う範囲を受け持ちながら、全体としてうまくバランスが取れるように意図されている。

2 市民大学の現状と課題

(1) 現状

●現在、市民大学では、概ね年間 50 講座以上、コマ数にして 400 コマ以上の様々な講座を実施している。令和4年度は以下の 77 講座を実施し、コマ数は 420 コマであった。市民大学という名のとおり、横須賀市民を優先的な対象としているが、市民以外の受講も受け入れているため、市外からの受講者もみられる。

●市民大学の講座にはいくつかの種類があり、開催時期は概ね次のようになっている。年度開始早々の4月に、前期講座にさきがけて行う「さきがけ講座」、続いて5月から開始する「前期講座」、8～9月に行う「夏期特別講座」、10月から開始の「後期講座」がある。

前期講座と後期講座は市民大学の中心を成すものであり、前期・後期それぞれ 20 講座以上を開催し、年間実施講座数の大半を占める。なお、前期講座ではコマ数の多い通年講座も開催している。

その他にも「特別講座」として1回のみの講座やコマ数の少ない講座を2～3月に、また学校の夏休みの時期に合わせて子ども向けの「ジュニアカレッジ」^{注3}を実施している。

令和4年度市民大学講座一覧

【さきがけ講座】					
	【コース/分野】	【講座名】	【期間】		
1	一般 / 教養	よこすかの音楽家によるレクチャーコンサート	4/9		
2	一般 / 教養	初心者からわかる教養としての西洋美術史	4/4		
3	一般 / 教養	もうひとつの浮世絵	4/10		
4	一般 / 課題対応	アウトドア×防災で生きる力を！	4/16		
5	一般 / 地域学	京急電車のふしぎを知ろう	4/16		
6	一般 / 地域学	京急線と駅の歴史	4/16		
7	一般 / 地域学	陽光と潮騒の文学・入門	4/18		

【前期講座】					
	【コース/分野】	【講座名】	【期間】		
1	一般 / 地域学	鎌倉殿と13人の有力御家人	6/27 ~ 11/21		
2	一般 / 地域学	浦賀学 事始め	5/18 ~ 7/20		
3	一般 / 地域学	陽光と潮騒の文学	6/6 ~ 9/5		
4	一般 / 地域学	近現代の横須賀で活躍した建築家と作品・系譜 ★オンライン併用講座★	5/28 ~ 9/17		
5	一般 / 地域学	すごいぞ横須賀の海！	5/22 ~ 9/4		
6	一般 / 教養	さまざまな楽器の音色とその魅力	6/12 ~ 10/9		
7	一般 / 教養	名画で読み解く聖書物語	5/23 ~ 3/13		
8	一般 / 教養	唐物と日本のわび	5/20 ~ 7/22		
9	一般 / 教養	古文字に親しもう 【入門クラス】	5/18 ~ 7/27		
10	一般 / 教養	古文字に親しもう 【中級クラス】	9/7 ~ 11/16		
11	一般 / 教養	学び直しの経済学入門	5/26 ~ 10/13		
12	一般 / 教養	私たちと民法	5/26 ~ 8/18		
13	一般 / 課題対応	東洋医学で実践する“健康の秘訣”	5/25 ~ 9/21		
14	一般 / 教養	電気鉄道技術入門	5/21 ~ 7/30		
15	一般 / 教養	読み尽くす「平家物語」 其の壱	6/10 ~ 2/17		
16	一般 / 教養	令和簡注本で読む「源氏物語」 8	5/24 ~ 3/14		
17	一般 / 教養	「万葉集」の世界	5/19 ~ 2/2		
18	一般 / 教養	芭蕉の軌跡	5/20 ~ 10/21		
19	一般 / 課題対応	歴史遺産を歩く 8	6/7 ~ 10/11		
20	一般 / 課題対応	世界に誇れる日本の港湾・空港の技術	5/19 ~ 7/14		
21	一般 / 課題対応	セカンドライフのためのマネープラン	6/19 ~ 7/3		
22	一般 / 課題対応	仕事に活かそうクラウドアプリ	6/1 ~ 6/15		
23	一般 / 課題対応	TOEIC450点目標クラス	5/26 ~ 9/29		

【特別講座】					
	【コース/分野】	【講座名】	【期間】		
夏期特別講座					
1	一般 地域学	仏像に親しむ『運慶 鎌倉幕府と三浦一族』展への誘い	8/11		
2	一般 地域学	仏像に親しむ【2】『運慶 鎌倉幕府と三浦一族』展への誘い ※追加実施	8/11		
3	一般 教養	日本の城のキホンを知る	8/20		
4	一般 課題対応	世界が注目！日本人の食と健康寿命	8/26		
5	一般 課題対応	横須賀から世界へ！eスポーツの魅力	8/27		
6	一般 教養	星の色から探る宇宙	8/27		
7	一般 課題対応	ウィズコロナ時代における認知症予防	8/31		
8	一般 教養	中世の仏教書に眼福をえた珍しい記事の数々	9/1		
9	一般 課題対応	骨折予防対策としての運動の重要性	9/6		
10	一般 地域学	京急線と駅の歴史－「県立大学」～「浦賀・三崎口」編－	9/10		
11	一般 地域学	京急線と駅の歴史【2】－「県立大学」～「浦賀・三崎口」編－※追加実施	9/10		

	【コース/分野】		【講座名】	【期間】
ジュニアカレッジ				
1	一般	課題対応	高校生から学ぶ「パソコン体験教室」	7/28
2	一般	課題対応	パラアスリートのお話＆ボッチャ体験	7/30
3	一般	課題対応	科学の時間だよ！にじ色の涙を作ろう！	8/3
特別講座				
1	一般	教養	徳川家康を考える	3/1
2	一般	教養	日本中世の職業	2/19
3	一般	地域学	運慶と浄楽寺の仏像をよみとく	2/26
4	一般	課題対応	もっと知ってよ 横須賀市 すかいいとーく	2/28 ～ 3/14
5	一般	課題対応	食べてダベってコミュカUP	2/28 ～ 3/7

【後期講座】				
	【コース/分野】		【講座名】	【期間】
1	一般	／ 教養	歌舞伎鑑賞講座	10/31 ～ 3/6
2	一般	／ 教養	ミュージカル「レ・ミゼラブル」の魅力	10/29 ～ 12/10
3	一般	／ 教養	映画を10倍楽しむ	1/12 ～ 3/16
4	一般	／ 教養	ビートルズ音楽概論	11/12 ～ 1/28
5	一般	／ 教養	シューマンの生涯と音楽	10/20 ～ 2/16
6	一般	／ 課題対応	やさしいお家ヨガ	12/2 ～ 12/16
7	一般	／ 課題対応	「季節の薬膳」冬から春へ向けての食養生法	12/21 ～ 3/15
8	一般	／ 教養	コーディネートでアンチエイジング	2/7 ～ 3/7
9	一般	／ 教養	断捨離*講座 入門～実践編	11/13 ～ 1/8
10	一般	／ 教養	モチベーションの心理学	10/17 ～ 1/30
11	一般	／ 教養	はじめての哲学2	12/8 ～ 3/30
12	一般	／ 教養	知られざる南極大陸の魅力	11/5 ～ 2/4
13	一般	／ 教養	横須賀星空散歩	11/5 ～ 3/11
14	一般	／ 課題対応	気象予報士によるお天気講座	10/14 ～ 11/25
15	一般	／ 教養	地図でたどる地形と地名	11/2 ～ 11/30
16	一般	／ 教養	世界を魅了する日本の美術・工芸	11/12 ～ 2/25
17	一般	／ 教養	日本語を再発見しよう	11/7 ～ 11/21
18	一般	／ 教養	大江戸まちづくり	10/21 ～ 3/3
19	一般	／ 地域学	写真で振り返る横須賀	1/11 ～ 3/22
20	一般	／ 教養	琉球・沖縄の歴史と文化	12/9 ～ 1/6
21	一般	／ 課題対応	国際関係論2022	11/27 ～ 3/26
22	一般	／ 教養	女王陛下を通して学ぶ英国の近現代史	10/26 ～ 2/8
23	一般	／ 教養	フランス語入門&フランス文化	10/18 ～ 2/21
24	一般	／ 教養	トルコの歴史を巡る8日間の旅 ★オンライン併用講座★	10/23 ～ 2/26
25	一般	／ 教養	三国志 魅力あふれるヒーローたち ★オンライン併用講座★	10/22 ～ 12/17
26	一般	／ 地域学	三浦一族と横須賀	11/1 ～ 11/8
27	研究	／ -	いざ出陣！三浦一族ゆかりの地をめぐる	1/11 ～ 3/15
28	一般	／ 課題対応	TOEIC600点目標クラス	11/10 ～ 3/16

※令和4年度「第46回横須賀市市民大学講座のまとめ」より抜粋

- 講座内容は次の3分野に分類される。「横須賀市」の市民大学講座であるため、特に②については本市ならではの特徴的な内容を扱っている。

- ①教養を高める内容

- ②郷土^{注4}に関する内容（地域学、横須賀学）

- ③多様な課題に対する内容（課題対応）

- ②の郷土に関する内容は、横須賀市教育振興基本計画（令和4年度～令和11年度）の基本的な方針（方針3 生涯を通じた学びを支援します）に示されているように、地域の歴史・文化・自然を生かした豊かな学びを推進することを目的としている。

令和4年度の例では、NHKの大河ドラマ「鎌倉殿の13人」に横須賀ゆかりの三浦一族が主要人物として登場したこともあり、三浦一族を採りあげた講座は関心が高く、多くの受講者を集めた。

また、大きな注目を集めた横須賀美術館の展覧会「運慶 鎌倉幕府と三浦一族」展に合わせて、市民大学でも「仏像に親しむ『運慶 鎌倉幕府と三浦一族』への誘い」という講座を実施するなど、これまで大切に継承されてきた文化財を核に社会教育施設のネットワークも生かした横須賀ならではの講座づくりに取り組んだ。

それ以外にも、市民の通勤や通学の重要な交通機関であり、「赤い電車」として親しまれている京浜急行線や、横須賀の大切な地域資源の一つである「海」をとりあげるなど、ローカル性も大切にしている。

コラム 2

【市民大学講座の3つの分野とは？】

市民大学講座は ①教養、②地域学（郷土関係）、③課題対応 の大きく3つの分野に分かれている。 ※講座名のカッコ書きは講座の種類（P.7 参照）

① 教養

自然科学、人文科学、社会科学分野、それら複数分野にわたる内容など、ニーズを取り入れながらバランスよく設定し、主に教養を高めることを目的としています。また、講義に行くこと自体が楽しみになる、講座を通じて新しい友人・知人ができるというようにつながりづくりのきっかけというプラスアルファの効果も狙っています。

- ・よこすかの音楽家によるレクチャーコンサート（さきがけ）
- ・「万葉集の世界」（前期）
- ・ビートルズ音楽概論（後期）
- ・星の色から探る宇宙（夏期特別）
- ・日本中世の職業（特別）

② 地域学（郷土関係）

横須賀（三浦半島地域も含む）の自然、歴史、地理、民俗、社会、産業、人物など、郷土を知り、郷土への愛着を高める内容や地域活性化につなげていくきっかけとなることを狙っています。

- ・京急線と駅の歴史（さきがけ）
- ・すごいぞ横須賀の海！（前期）
- ・三浦一族と横須賀（後期）
- ・仏像に親しむ「運慶 鎌倉幕府と三浦一族」展への誘い（夏期特別）
- ・運慶と浄楽寺の仏像をよみとく（特別）

③ 課題対応

社会の変化に対応した様々な社会的課題、地域課題などに対応する内容を扱います。また、市民が興味や関心を持ちそうなテーマを掲げ、一見課題対応講座のように見えなくても、受講すると実は課題解決への気付きになるような工夫もしています。

- ・アウトドア×防災で生きる力を！（さきがけ）
- ・セカンドライフのためのマネープラン（前期）
- ・国際関係論 2022（後期）
- ・食べてダバッてコミュ力 UP（特別）
- ・もっと知ってよ 横須賀市 すかいいとーく（特別）
- ・『ジュニアカレッジ 高校生から学ぶ「パソコン体験教室」』など

※令和4年度「第46回横須賀市市民大学講座のまとめ」より抜粋

- 昭和 52 年度の開設当初は、大学や短期大学の教養課程の講義のようないわゆる専門的な硬い内容がほとんどであったが、社会状況の変化や人々の関心の多様化が進み、講座内容も従来の専門的内容から比較的軟らかい教養的な内容まで、開設当初より幅広い内容を扱うようになってきている。
- また、市民大学では受講者アンケートを実施しており、講座の満足度や今後取り上げてほしい講座内容などのほか、受講の目的や講座を受講して生じた意識や行動の変化についての質問項目を設けている。受講目的や意識・行動の変化は様々であるが、地域活動に役立てることを受講目的とし、受講の結果、実際に地域活動に役立った、仕事などに生かしたというような回答もいただいている。

市民大学の受講目的・意識や行動の変化

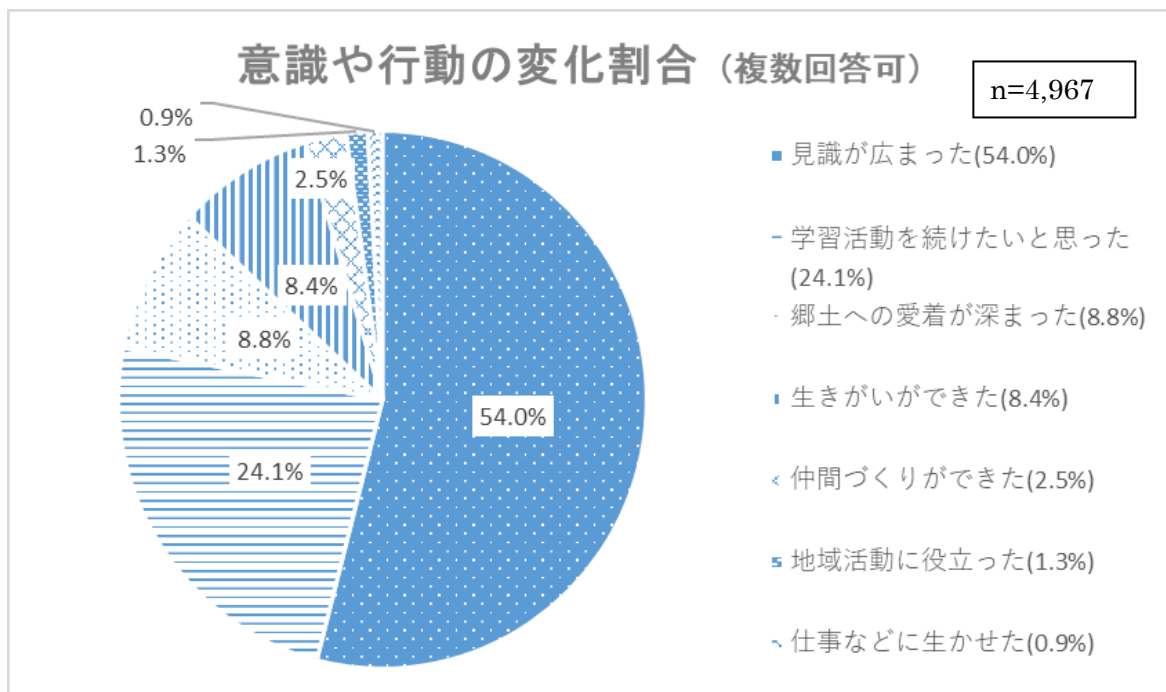
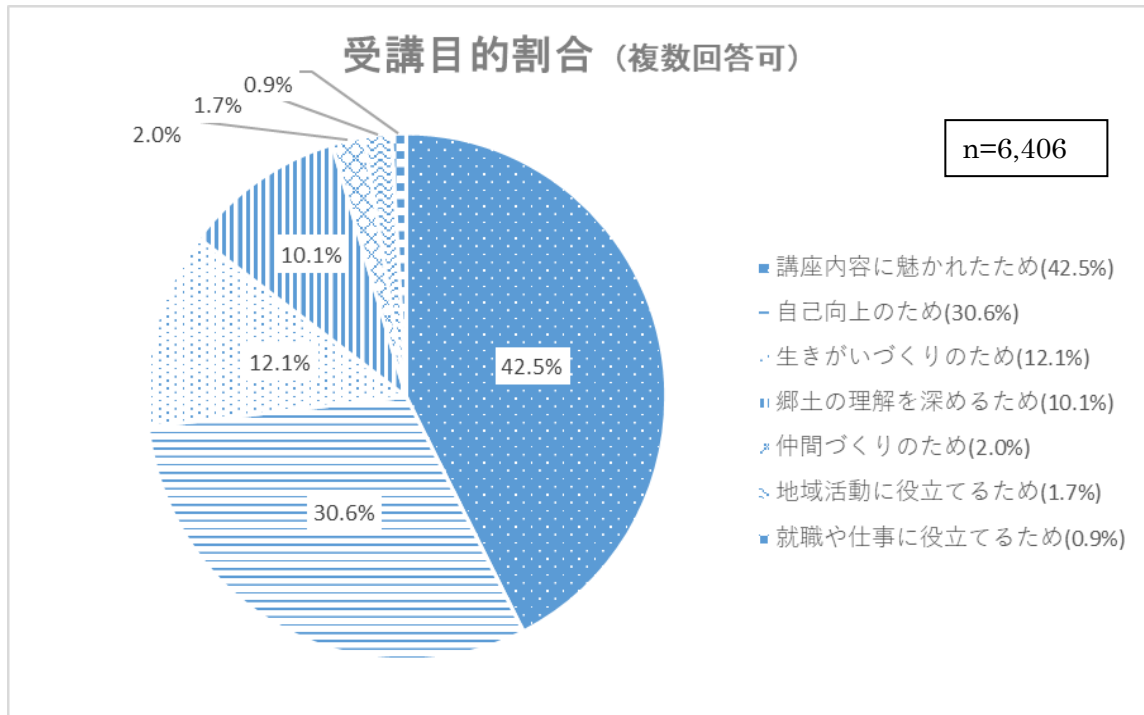
☆市民大学を受講された目的を教えてください（複数回答可）

n = 6, 406

	さががけ講座	前期講座	後期講座	特別講座	合計
仲間づくりのため	18	25	44	42	129
地域活動に役立てるため	22	18	33	35	108
就職や仕事に役立てるため	6	21	19	13	59
生きがいづくりのため	94	205	275	204	778
郷土の理解を深めるため	89	137	203	221	650
自己向上のため	257	503	738	460	1, 958
講座内容に魅かれたため	366	676	1004	678	2, 724

☆本講座を通じて、受講前と意識や行動が変化した点を教えてください（複数回答可） n = 4, 967

	さががけ講座	前期講座	後期講座	特別講座	合計
仲間づくりができた	12	35	49	27	123
地域活動に役立った	9	15	14	29	67
学習活動を続けたいと思った	116	341	473	265	1, 195
仕事などに生かせた	7	15	16	7	45
生きがいがあった	52	127	131	106	416
郷土への愛着が深まった	57	101	130	150	438
見識が広まった	374	668	983	658	2, 683



※令和4年度「第46回横須賀市市民大学講座のまとめ」より

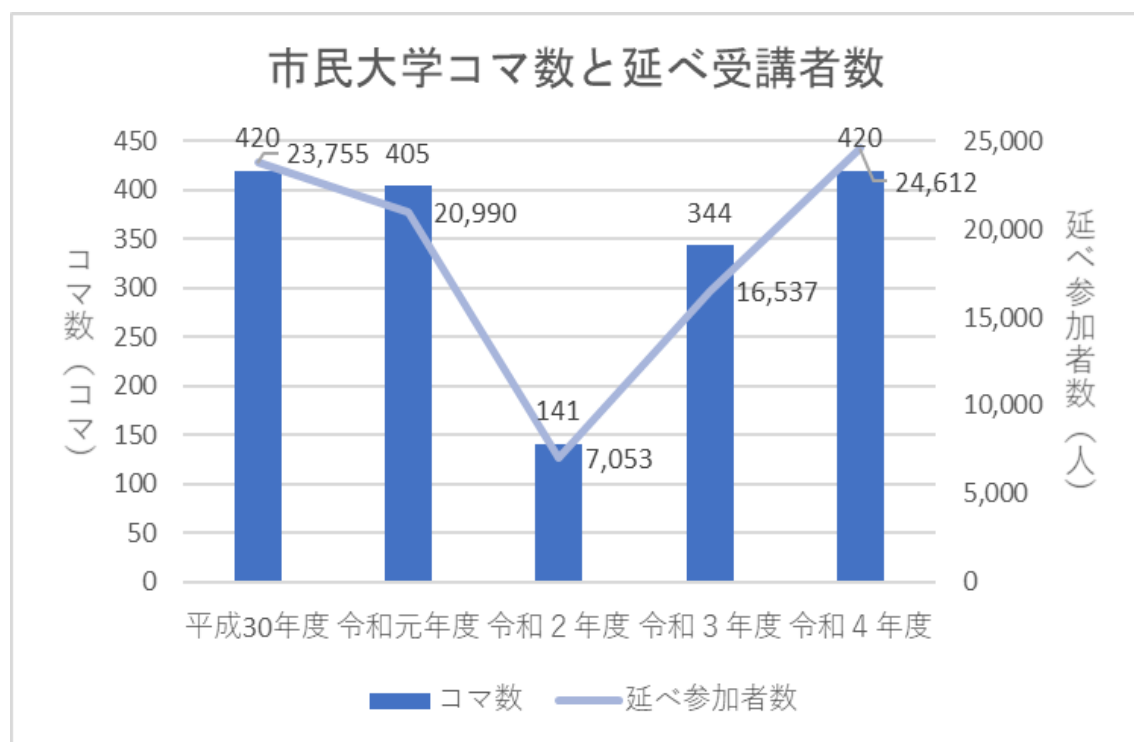
※端数処理の関係から合計は100%にならない。

●令和4年度市民大学は、講座数 77 講座、延べ参加者数が 24,612 人と、コロナ以前も含めて、いずれも過去最高となった（新型コロナウイルス感染症の影響が大きかった令和2年度は、延べ参加者数 7,053 人）。

平成30年度から令和4年度までの市民大学講座数等

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
講座数	56 講座	57 講座	30 講座	56 講座	77 講座
コマ数	420 コマ	405 コマ	141 コマ	344 コマ	420 コマ
延べ参加者数	23,755 人	20,990 人	7,053 人	16,537 人	24,612 人

※講座数、コマ数は冊子「生涯学習」、延べ参加者数は令和4年度「第46回横須賀市市民大学講座のまとめ」より抜粋

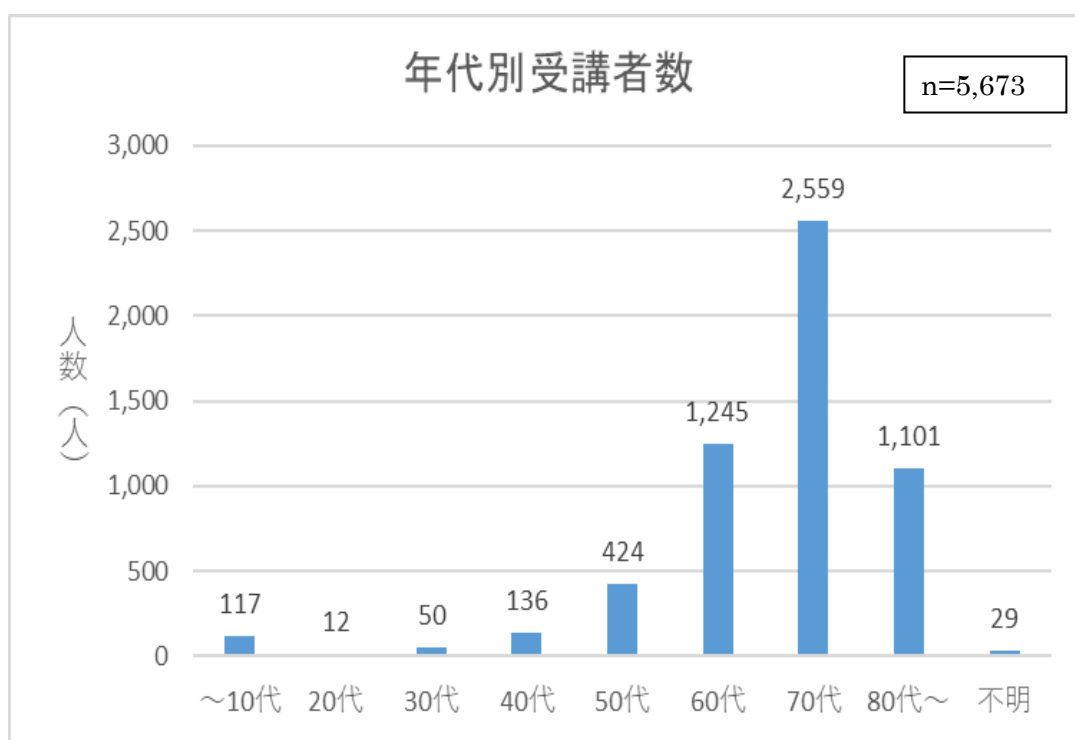


(2) 課題

① 受講者の傾向

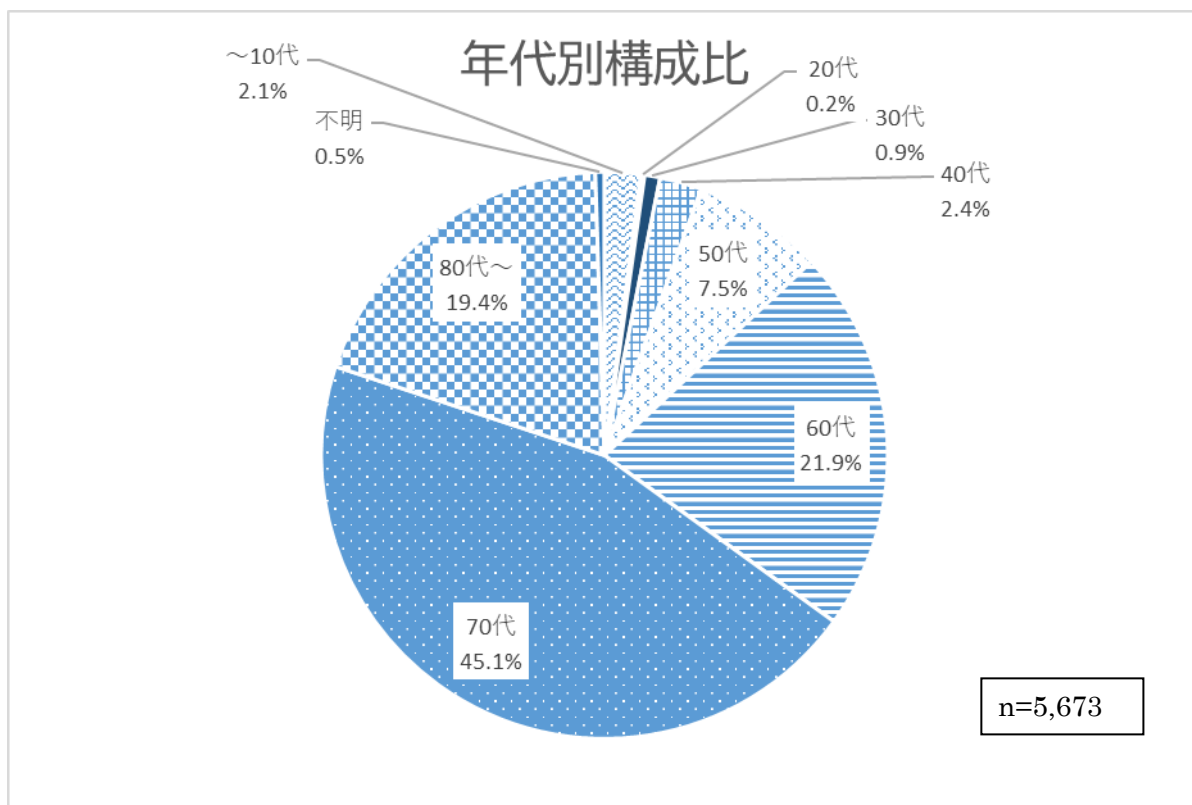
- 受講者層は 70 代が中心、次いで 60 代、80 代と続き、50 代以下はかなり少ない。また、その傾向は女性よりも男性の方が若干強く表れている。
- 50 代以下の年代層は、仕事、学業、育児などの時間的制約が厳しいが、定年退職や子どもの独立などにより、自由に使える時間が増える 60 代以上の年代が受講者層の中心となってきた。超高齢化社会の進展から、受講者層の中心となるこれらの年代も定年延長や再雇用などにより、余暇時間の減少が考えられるが、引き続き中心となることが見込まれ、この年代のニーズに対応していくことは非常に重要である。

令和 4 年度市民大学年代別受講者数



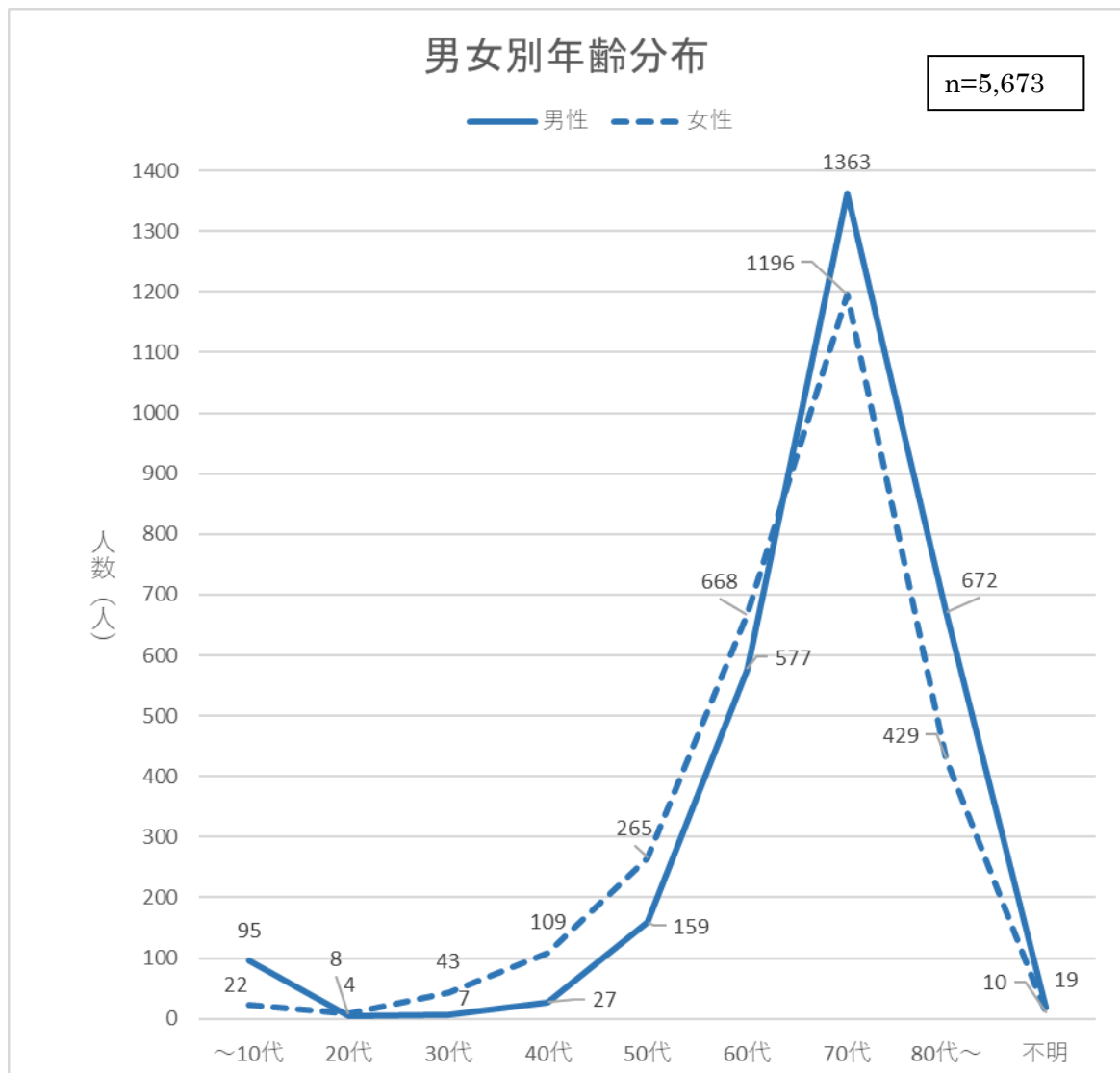
※生涯学習センター指定管理者からの受講者年代に関する提供データをもとに作成

令和4年度市民大学年代別構成比



※生涯学習センター指定管理者からの受講者年代に関する提供データをもとに作成

令和4年度市民大学男女別年齢分布



※生涯学習センター指定管理者からの受講者年代に関する提供データをもとに作成

- 50代以下の成人（18歳～59歳）は、通勤通学、仕事、学業などによる時間的制約が緩和される平日の夜間、土日等の休日など、受講機会が限られると考えられる。また、子育て期間中は自分の自由になる時間は不定期で少ない。この世代の余暇時間の使い方には、旅行や家族行事等さまざまな選択肢が存在するため、市民大学のような生涯学習講座は学ぶ必要にせまられた内容や状況でない限り、受講へのハードルは高いものと考えられる。

コラム 3

【総務省統計局 令和3年社会生活基本調査^{注5} 生活時間及び生活行動に関する結果 結果の概要より】

- ・総務省統計局の令和3年社会生活基本調査では、平日に通勤通学を行った人の通勤・通学時間の全国平均が1時間19分であるのに対し、神奈川県は1時間40分で最長となっている。
- ・5年前の同調査での15歳以上の有業者の仕事時間と比べ、令和3年は、男性が22分減の6時間27分、女性が5分減の4時間42分と男女ともに減少はしている。
- ・家事関連時間は、5年前の同調査と比べると、男性は7分増の51分、女性は4分減の3時間24分。男性に比べ、女性の家事関連時間は非常に多い。

② 講座の周知と認知度の向上

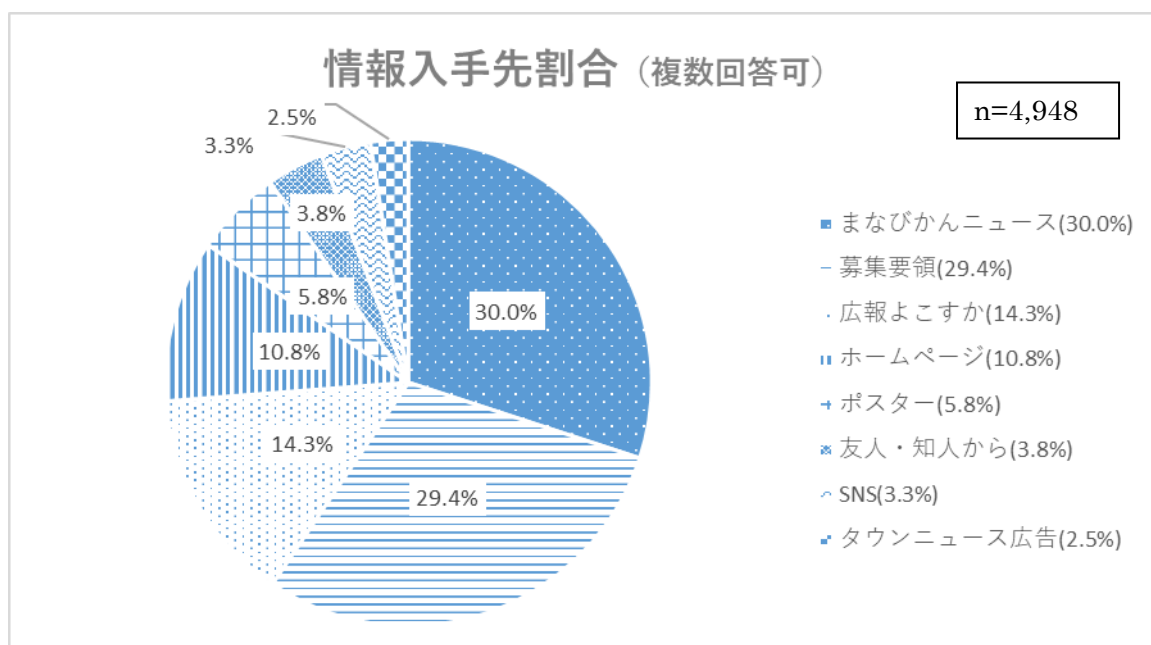
- 積極的に自ら情報を収集して市民大学に参加する方は、情報のある場所や収集の仕方をよく知っている。しかし、市民大学が生涯学習センターで行われていることを知っている市民の割合は決して高くはない。
学ぶことに興味や関心があっても、市民大学の情報と接する機会がなかったり、あっても見過ごされたりしていることが考えられる。
- 市民大学で学ぶことに興味や関心のない方は当然存在する。ただし、現在はその意識がなくても、将来「〇〇について知りたい、学びたい」という気持ちが生まれた場合に、市民大学や生涯学習センターといったキーワードが少しでも記憶にあれば、受講につながる可能性はある。
- 市民大学の情報について、講座募集要領やチラシ、まなびかんニュース^{注6}といった紙媒体は、国、県、市の公的な施設や近隣市町、京急の駅など、幅広い機関等に配架され、送付先リストを見る限りでは公的・公共的な施設等は網羅されている。
しかし、チラシやリーフレット等の配架依頼は、様々なところから数多く

届くため、市民大学の情報だけがラック等の一番よい場所に配架されるわけではなく、他の多くの配架物に埋没して目立たない可能性がある。

●ホームページや X（旧ツイッター）のデジタル情報も発信し、市の公式 X や市美術館の X でのリポスト（旧ツイッターのリツイートにあたる）を依頼することにより拡散しているが、反応はいま一つである。

●情報入手の経路が、待っていても自動的に情報が送られてくるプッシュ型（相手が情報を押し込んでくる）から、欲しい情報を自分で取りに行くプル型（自分で情報を引っ張って取ってくる）に変わってきている。市内の家庭に全戸配布を前提としている広報紙（広報よこすか）も、市民大学の情報が必ずしも掲載されるわけではないため、デジタル機器を使わず、広報紙欄をチェックして情報を得ていたような方には、市民大学の情報が届きにくくなっていると考えられる。

令和4年度市民大学情報入手先割合



※令和4年度「第46回横須賀市市民大学講座のまとめ」掲載データより作成

※端数処理の関係から合計は100%にならない。

3 市民に広く認知され、参加しやすい市民大学へ

上記の課題では、受講者層の年代について、

- ・ 中心年代とそれ以外の年代では、自分が自由に使える時間に差があること、
- ・ 中心年代以外は自由に使える時間の制約が大きいことから、興味があったとしても参加へのハードルが高く、受講者が特定の年代に集中する傾向があること、があげられた。

しかし、受講者の中心となる年代は以前からほぼ変わらないことから、中心年代以外の層もこの年代に達すると市民大学をはじめとした生涯学習活動へのモチベーションが高まるという可能性も推測できる。

また、市民大学の情報拡散については、市広報紙への掲載機会の減少等による発信力の低下、紙媒体の市民大学の募集要領やチラシ等の効果や SNS 等のデジタル情報の効果の伸び悩みがあり、必要とする方へ情報を届けることの難しさ、もう一手が欲しいという課題が見えている。

そこで、まだ市民大学につながっていない「新たな層」※を市民大学につなげ、呼び込む可能性を高めるために、以下の4点に着目した。

- (1) 「新たな層」へのアプローチと将来の受講者の獲得
- (2) 情報発信の工夫
- (3) 学びへのニーズを捉える
- (4) 学びの入口として

※「新たな層」とは、①市民大学の存在自体を知らない、②市民大学に参加したことがない という市民大学と接触の無い方々で、今後、新規の市民大学受講者となりうる可能性を持った方々を意味する言葉として使用している。

(1)「新たな層」へのアプローチと将来の受講者の獲得

- 市民大学受講者には、学びに関する様々な情報を自ら入手して参加する方や、長年続いている連続講座に参加し続けている方などのリピーターが多い。様々な理由から市民大学につながっていない方やそもそも市民大学自体を知らない「新たな層」を市民大学につなげる努力は必要である。
- 講座当日に空きがあった場合に1コマだけでも受講できる「聴講生制度」を設けているが、今年度（令和5年度）から名称を「おためし受講制度」と変えた。より分かりやすく、気軽に申し込みしやすくなる。人気のある講座は空きがなく、申し込みは講座当日に限るという制約はあるが、受講するかどうか迷っている方、講座の様子や雰囲気がどのようなものか体験してみたいというような方には有効な仕組みと考えられる。潜在的受講者を市民大学につないでいくために、「おためし受講制度」という仕組みがあることを知ってもらうとよい。また、1コマだけでも受講可能という仕組みを生かし、何らかの工夫ができると更によい。
- 普段は少ない30代や40代等の受講があった場合や、新規の受講者が多く「新たな層」の動きがあった場合には、情報入手経路やなぜ受講したのか理由を確認できるとよい。記入式のアンケートでは、面倒で書かなかったり、端折って書いたりするようなことがあるかもしれないので、受講者から直接聞き取るインタビュー形式が望ましい。話をしながら質問をすることもできるため、新たに見えてくるヒントがある。
- 50代以下の年代は、それより上の年代に比べて仕事、学業、育児などの制約が多く、自由に使える時間が相対的に少ないと思われる。娯楽や休養、家族旅行等、多々ある選択肢の中から、その少ない時間を市民大学をはじめとした生涯学習活動に充てるには、受講者に対する強い動機付けが必要となる。市民大学に限らず一般的に講座等の募集要領やチラシでは、内容には触れているが、受講したらどのようなメリットがあるのかまで書いてあるものは少

ない。メリットを強く訴えることができれば、より効果的である。

- かつての 60 歳定年制から 65 歳定年制に移り、今後はさらに定年年齢の延長や再雇用等で、高齢者の就業が増えることが予想される（令和 4 年 9 月 18 日 総務省統計局 統計トピックス No. 132「統計からみた我が国の高齢者」では、2021 年の高齢就業者数は 2004 年以降 18 年間連続で前年に比べ増加している）。しかし、いわゆる現役世代のフルタイム勤務に比べると、勤務日数や勤務時間の制約が軽減されるような形での就業が増えることも考えられるため（令和 4 年 9 月 18 日 総務省統計局 統計トピックス No. 132「統計からみた我が国の高齢者」では、高齢の非正規職員・従業員は 10 年前に比べて 225 万人増加し、非正規雇用を選んだ主な理由は「自分の都合がよい時間に働きたいから」が最多）、依然、定年というのは自分が自由に使える時間が増える大きなきっかけと考えられる。定年が間近となった年代に、自分の自由になる時間の使い方の一つとして市民大学をアピールできる機会があると、市民大学へ参加する可能性のある「新たな層」につなぐことができるのではないかと。また定年後の社会参加をすすめる「生涯現役」に関する取り組みという視点からも重要である。

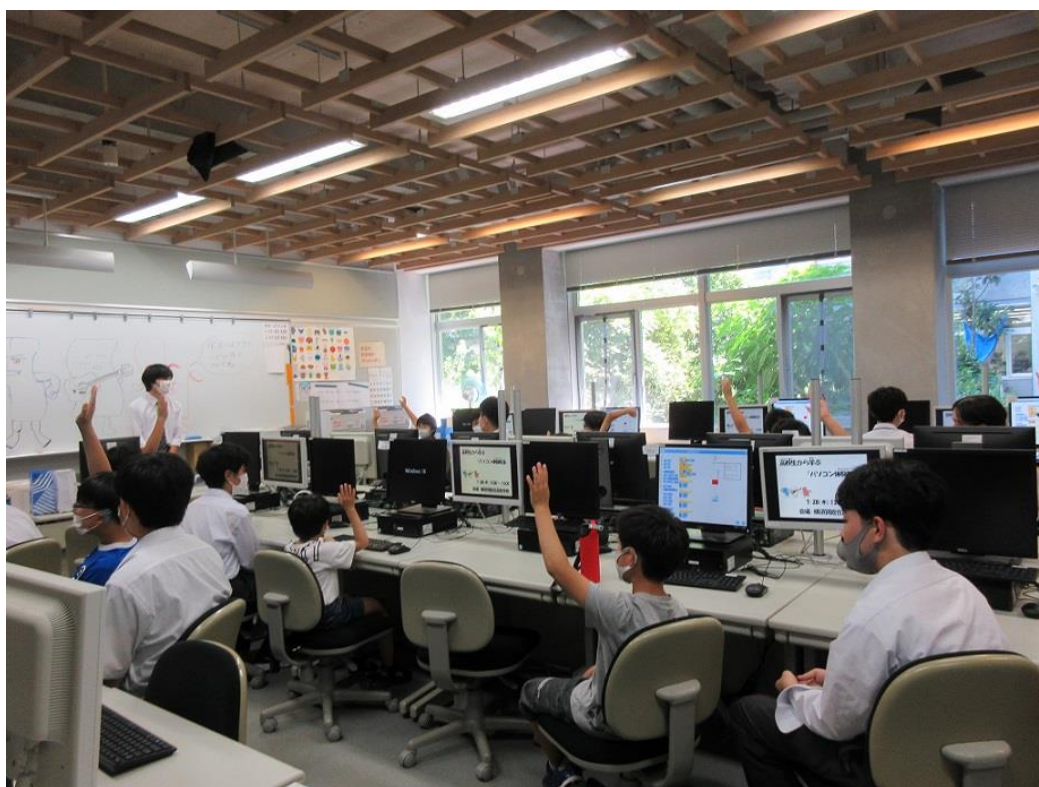
- 長年続いている講座はリピーターが多く、市民ニーズを捉えて定番化した人気講座である。こうした定番講座はリピーターに加えて、現在の中心受講者層である 70 代前後の新規受講者も多くみられるため、この層のニーズは引き続き的確に捉えていく必要がある。

「人生 100 年時代」と言われるようになり、元気で活動的なアクティブシニア^{注7}と呼ばれる高齢者も増えている。今後、ボリュームゾーンである 70 代の方やそれ以上の年代で、今まで市民大学につながりを持っていなかった「新たな層」への更なるアピールも重要である。

- 令和 4 年度ジュニアカレッジの「パソコン入門教室」は、横須賀総合高校パソコン部の生徒が講師となって小学生にプログラミングを教えるという形式の講座である。受講者の小学生からは「次回も参加したい」という声が多

い。また、講師を務める高校生側も小学生を教えることで自らが学ぶことにつながり、双方にメリットがある。

市民大学が、この講座に関わった高校生や受講者の小学生の意識の中に残れば、将来的に受講者側、講師側の両面で市民大学に関わってもらえる可能性がある。また将来、自身が親となった際に子どもを参加させるということも考えられ、まさに「新たな層」への取組と言えるかもしれない。子どもを対象にした講座は保護者が申込みをするため、講座を通じて市民大学を成人にもアピールできる機会となる。学校の夏休み期間を中心に開催する子ども向け講座は、新しい層への働きかけという意味で、更に研究の余地がある。



ジュニアカレッジ パソコン入門教室

(2) 情報発信の工夫

- ホームページや SNS などデジタル媒体での情報発信も行っているが、まだ、まなびかんニュース（生涯学習財団の広報紙）や募集要領、ポスターといった紙媒体の比重が大きい。情報発信については、紙媒体と電子媒体の比重が変わっていく過渡期であり、デジタルでの発信に力を入れながらも、当面は併用を続ける必要がある。

また、スマートフォンの普及を考えると、紙媒体に QR コードを載せることで、インパクトのある紙媒体で興味を引き付け、詳しい情報はホームページを見てもらうといった両媒体の特徴を生かした広報を進めていくとよい。

- 紙媒体の配布先は、現状で考えられる基本的な場所は押さえているが、「新たな層」に情報が届く可能性を高めるため、今後も新規開拓を地道に続けることは必要である。ある目的をもって出かけた人が、そこで待ち時間が生じるような場所や滞留時間の長い場所、例えば病院待合室や美容室でのチラシやポスターによる情報発信なども有効だと思われる。

また、不定期ではあるが、大規模イベントなど人が多く集まる場の活用、例えば音楽の講座周知を芸術劇場のコンサートの場を利用して行うという取組や、市の各部局が通知等を発送する際に講座案内を同封するなど、市役所内の既存の仕組みを利用した広報も考えられる。

- 市民大学と併せて会場となる生涯学習センターの周知にも力を入れると効果があるのではないか。講座受講者は講座会場として、学習室等利用者は貸館としての側面だけで生涯学習センターを認識しているかもしれない。この場合、学習室等利用者は市民大学にとって「新たな層」につながる事が期待できる。

市民大学会場の生涯学習センターは貸館でもあり、貸館の生涯学習センターは市民大学会場でもあるという両面を知ってもらえるとよい。

- 市民大学自体を知らない、知ってはいるがどこで行っているか分からない、会場の生涯学習センターを知らない、他の「〇〇センター」「〇〇かん」と区別がつかない、という方もいるので、生涯学習センターの認知度が少しずつでも上がっていくとよい。知らない人に知ってもらう工夫が必要である。生涯学習センターで市民大学が行われているということを知ってもらえれば、今すぐの受講に結びつかなくても、今度興味のある講座があったら受講しようという、潜在的受講者に対して市民大学の種を蒔くことにつながる。



生涯学習センター (愛称：まなびかん) のX(エックス)

市民大学の募集情報、休講、延期情報など利用者に有益な情報を速やかに提供しています。

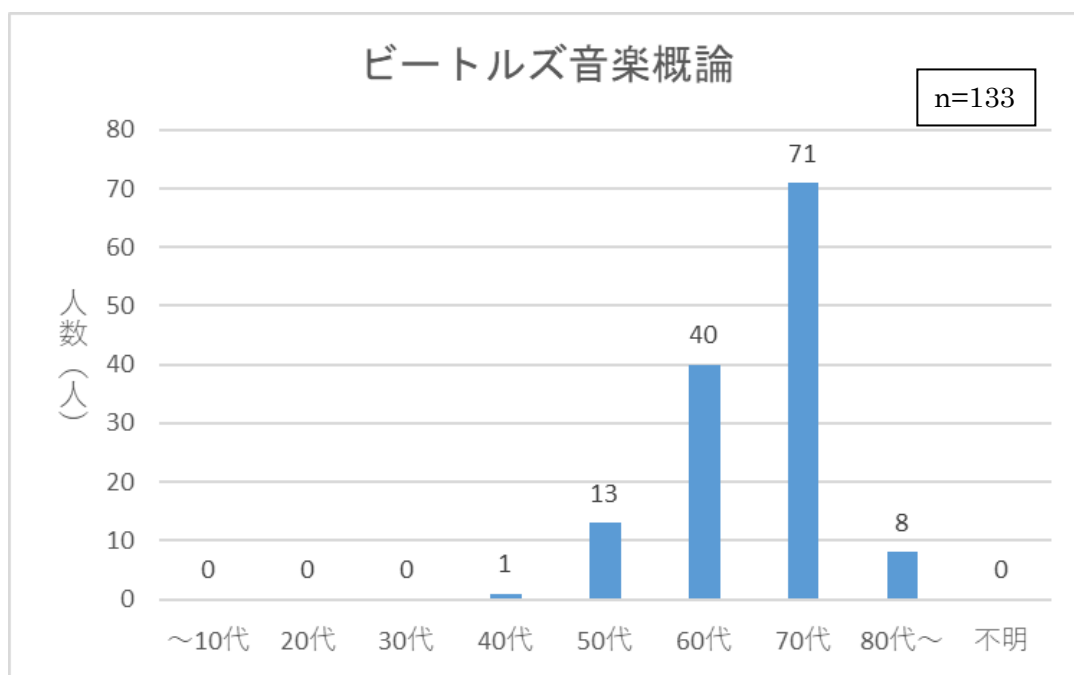


まなびかんのQRコード

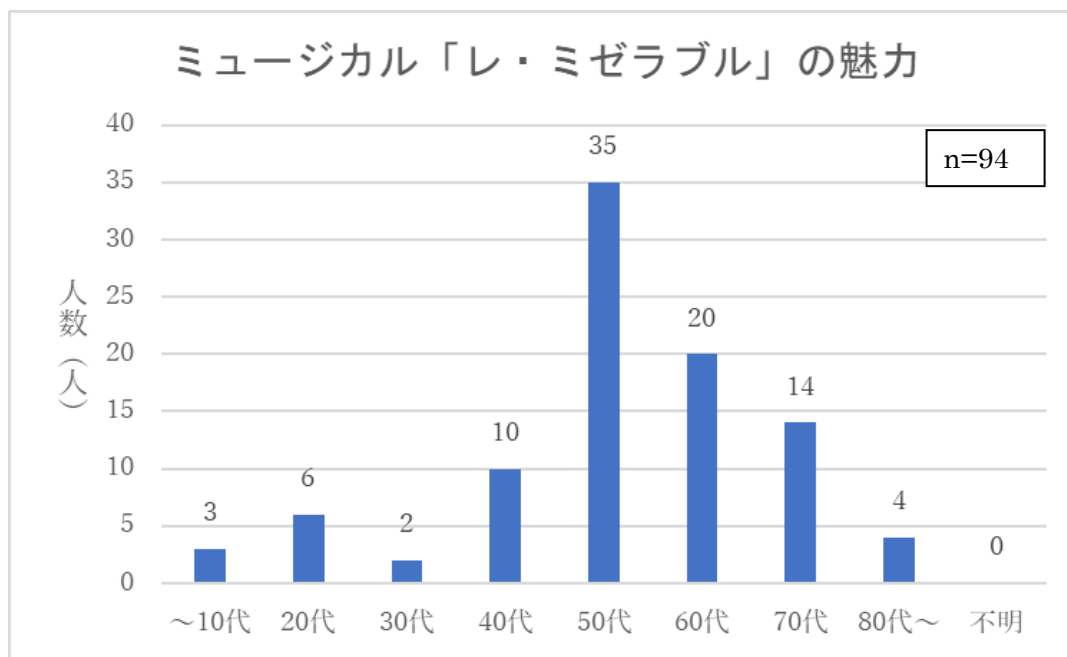
(3) 学びへのニーズを捉える

- 令和4年度に開催したビートルズの講座は、将来のボリュームゾーンとなる「プレ70代」として、60代をターゲットにした講座である。ビートルズは1960年代～70年代に活動した音楽グループであり、いまだに世代を問わずファンが多い。現在の60代後半から70代半ばの方は、10代にビートルズをリアルタイムで聴いていた世代であり、この世代に強くアピールする講座として企画した。目標とする年代になる前の「プレ」世代にアピールして受講を促し、そのまま継続して受講者となってもらいたい狙いであり、ビートルズをツールとして狙いどおりの結果を出せた。このように、対象とする年代の過去、その年代の方が若かった頃に目を付けるという方法は他のケースでもテストする価値がある。

令和4年度市民大学年齢分布



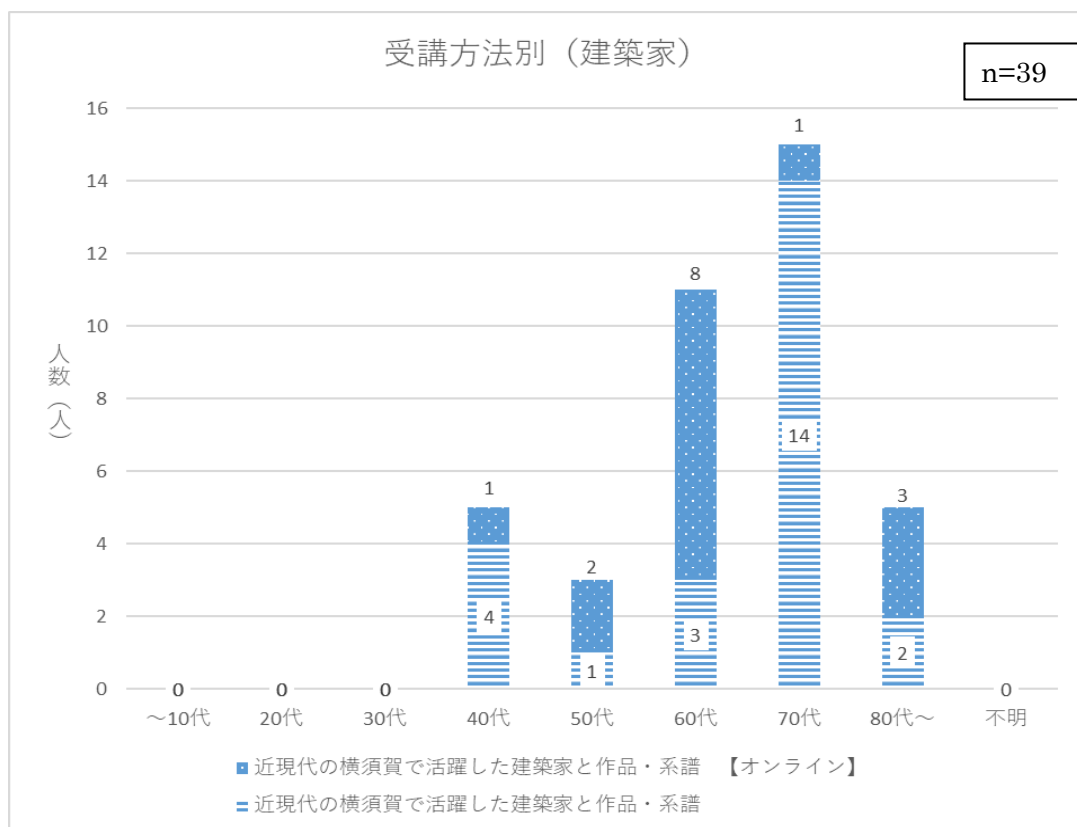
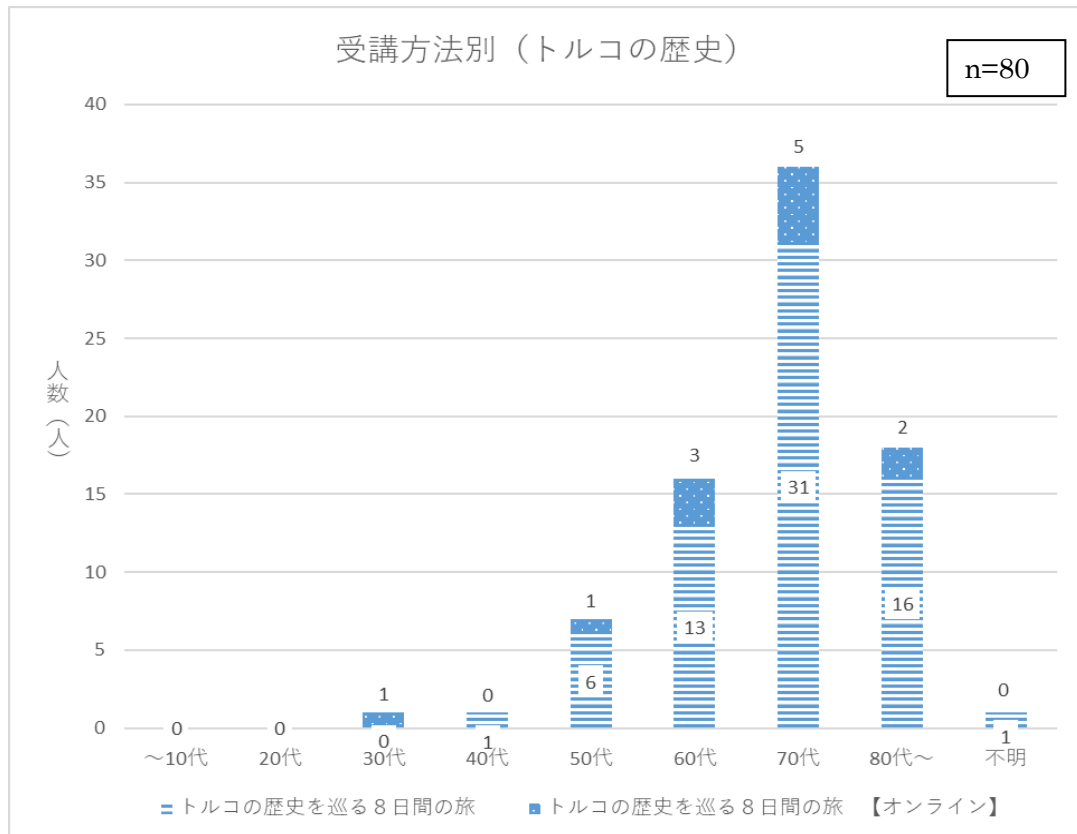
- また、ミュージカルをツールとした講座では、10代から50代の「新たな層」を呼び込むことができた例である。

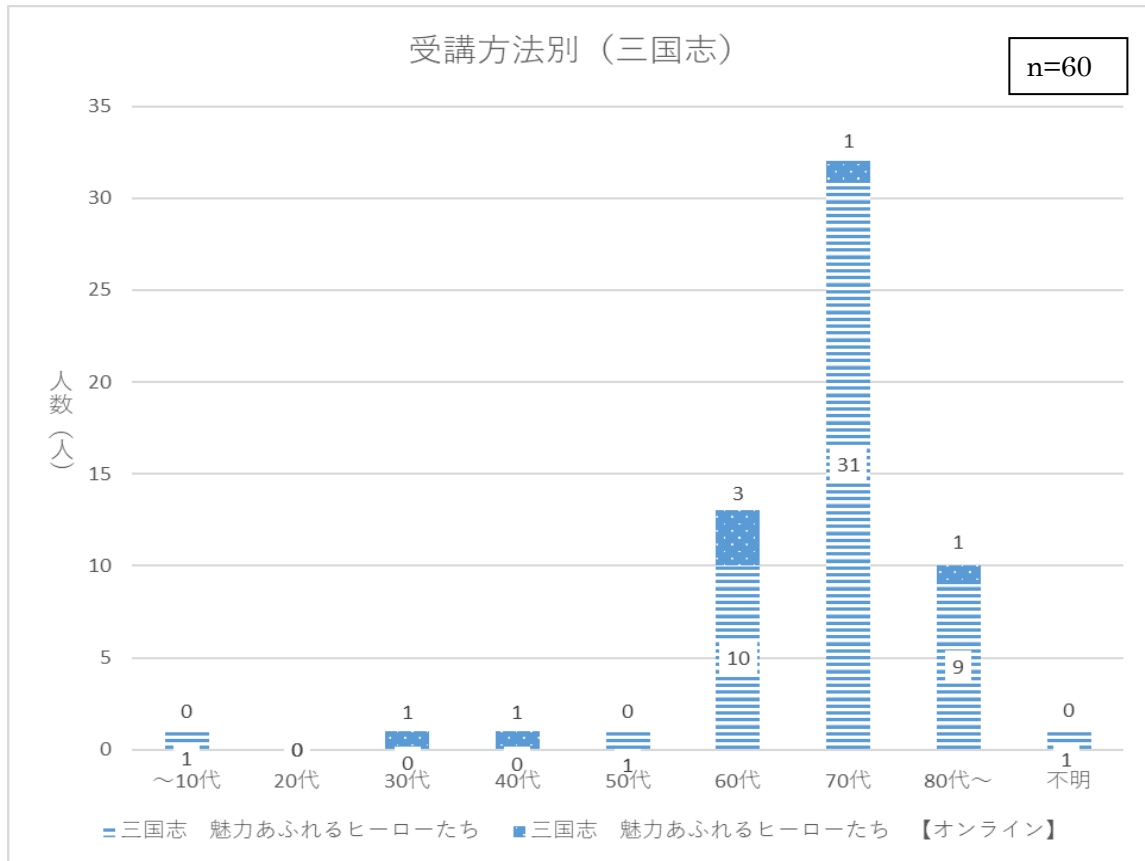


※生涯学習センター指定管理者からの受講者年代に関する提供データをもとに作成

- 現在も試験的に少人数で講座を行い、よい反応が返ってくるようであれば募集人数を拡大する、というような手法を取り入れている。ニーズを探るためには、毎年少しずつでも新たな試みの講座をテストし、見込みのある講座を育てていくという現在の手法をより意識的に、地道に継続していく必要がある。
- オンライン講座を実際に受講してみた感想として以下の内容があった。
 - ・会場に行くことなく受講できるので便利であった。
 - ・著作権の問題があるので全部ではなかったが、オンデマンドに一部対応しており、こちらも便利であった。
 - ・会場での集合講座との併用開催であったため、機器を持っていなかったり取り扱いが苦手だったりする方でも受講できるような配慮がされていた。細かいことかもしれないがよい対応である。
- オンライン講座については、若い方が使う手段という先入観を持つことなく、受講者の利便性を向上させるための手段の一つとして、今後の研究にも期待したい。

令和4年度市民大学受講方法別分布





※生涯学習センター指定管理者からの受講者年代に関する提供データをもとに作成



市民大学 「日本中世の職業」

(4) 学びの入口として

- 本市の市民大学は講座数やバリエーションが豊富で、近隣市町と比べ、かなり充実した講座メニューであり、そのため、市外近隣市町からの受講者もいる。市民大学は、個々の講座だけで完結するのではなく、より多くの市民に、学習活動を継続してもらうためのきっかけを作り、さらに学びの幅を広げてもらうということも重要な役割と考える。

例えば、市民大学の「古文字に親しもう」という講座を受講し、古文書を読めるようになった市民が、社会教育施設である博物館や図書館の郷土資料室を訪れて、公開可能な資料に触れたり、学芸員等の専門職員に学習上のアドバイスを求めたりすれば、より深い学びに進む道が開ける。市民大学講座とは別に、博物館でも専門職員が講師となった古文書に関する講座を行っている。

市民大学講座の講師が講座開催日にしかないのに対し、博物館や図書館の郷土資料室は、古文書の扱いに精通し、高度な専門知識を持った職員が常駐し、専門的な知見を提供できるという機能を持っており、この機能を活用して、より深く、幅広い学びにつなげていくこともできる。

また、資料と専門職員の双方を備えているため、より深い学びを求める市民や、そのような市民によって自主的に結成された学習サークルが出入りすることもあり、自身と同じように、より深い学びに意欲的な人々とつながる機会も期待できる。

このような学びを深め、広げていくことにつながる市民大学以外の場や機会に関する情報提供も併せて行うことができれば、より深く幅広い学びの世界への入口としての役割を果たすことが期待できる。

- 生涯学習センターでは、市内で活動するサークルや講師情報を掲載した「Yokosuka まなび情報」や、市内での学びに関連する行事やイベント等を掲載した「まなびかんニュース」等をはじめとする様々な生涯学習情報の収集・提供を行い、市民からの学習相談にも応じている。

また、市民が身につけた学びの成果を、自らが講師として地域で活用する支

援を行う「ABC プラン」や、市民が自身で受けてみたい市民大学の講座を実際に企画・運営する講座等のように、学習成果を活用する事業など、市民大学事業以外にも生涯学習に関するさまざまな事業を行っている。

市民が学んでみたい、参加したいと思う分野のサークルや講師、講座や講演会、イベント等の情報を提供して、より幅広い学びにつなげ、自ら学んだ成果を自分のためだけではなく、地域や他の人のために活用できるように支援を行い、市民大学事業とそれ以外の事業に相互に関連性を持たせ、補完しあう仕組みにより、より学びの幅や深みを増すことが期待できる。

自身が受けてみたい市民大学講座を企画・運営する講座では、企画・運営側の市民が活動を継続していくとともに、その市民大学講座の受講者の中に、自分も講座を企画・運営してみたい、実際に加わりたいという市民が現れることも期待している。

コラム 4

【「Yokosuka まなび情報」と「ABC プラン」とは？】

「Yokosuka まなび情報」とは、

主に本市で活動する講師やサークルの情報を分野別（歴史・郷土文化、語学、演劇、ダンス・バレエなど）に掲載し、年3回の「ミニ瓦版」と、年1回の「瓦版」として発行する冊子であり、横須賀市生涯学習センターのホームページにも掲載している。講師やサークルの情報掲載については随時受け付けている。

また、「ABC プラン」を経た講師は、すべて講師登録を行っている。掲載することにより、サークルや講師は活動の場や持っている技能を学習活動に提供して活用することができ、学習者は自ら学びたい分野のサークルや講師を探して学習活動に利用することが可能となっている。

「ABC プラン」とは、

「Yokosuka まなび情報」に登録している講師の持つ知識や技能を地域住民の学習活動に役立てるため、特に経験の浅い初心者の講師を対象に、講座を行うにあたっての留意点などの説明、実際に自分で企画した講座の概要デモを行って講師同士で相互評価などを行い、実際に講師としてデビューするまでの支援を行う取組みである。

「ABC プラン」の「A」は Action（ABC プランに自ら行動を起こして参加しよう！）、「B」は Begin（講師として講座の企画・運営をはじめてみよう！）、「C」は Challenge（実際に講座を開催して講師デビューに挑戦してみよう！）という講師デビューまでの道のりの頭文字をとったものである。登録講師以外でも、「ABC プラン」のA研修会に参加してから「Yokosuka まなび情報」に講師登録して参加することができる。

ABC プランを修了した講師の学びの成果が活用されている事例として、受講者とのサークル結成に活動が発展したり、コミュニティセンターから講座講師を依頼されたりということが挙げられる。

まなびに関する講師やサークルの情報を提供する「Yokosuka まなび情報」と、そこに掲載される講師の活動スキルを向上させる「ABC プラン」は相互に関連し補完しあう形になっている。

●市民大学の講座には、学びを深化させて、その成果を発表する（＝学習成果の活用につながる）「研究コース」があるが、講座数としては少ない。

●学習成果の活用を目的としたプログラムとしては、市民大学とは別に少人数・ワークショップのような形式でじっくりと取り組み、学びの成果を地域に生かす「学習成果地域活用事業」^{注8}を実施している。

この事業では、市民が自ら学んだ成果を生かして講座を企画し、講師デビューするまでの支援（ABC プラン）や、講座企画運営ボランティアとして、自分が受けたいと思う市民大学の講座を仲間と企画・運営して実施することの支援を行っており、受講者は具体的な学習成果の地域活用の方法を学ぶことができる。

●生涯学習センターでは、より深く学びたい、幅広く学びたいという方に対して、来館や電話による相談に対応している。

そのため、市民大学で学び始めた方が、「その学習成果を地域に生かしたい」という場合は学習成果地域活用事業につなぐ、また「より深い学びや別分野での学びを求める」場合は文化生涯学習情報収集・学習相談事業につないでいく、という事業間連携が可能である。

学びの導入部として市民大学を位置づけ、「アフター市民大学」として学習成果地域活用事業や文化生涯学習情報収集・学習相談事業といった取組を効果的に連携させながら、総合的に市民の学習活動をフォローするという体制をより打ち出すことができれば、市民大学に参加することの大きなメリットになる。

おわりに

市民大学開設当時と比べると、学びの選択肢は増えた。自治体が開催する講座や講演会、大学の生涯学習講座、そして動画サイトでの無料学習コンテンツなど、いつでもどこでも学ぶことのできる環境が整ってきている。

また、横須賀市の市民大学では令和4年度の延べ参加者数が過去最高であったことや、総務省が令和3年に実施した「社会生活基本調査」の「生活及び生活行動に関する結果」でも、1年間の主な生活行動のうち「学習・自己啓発・訓練」の行動者率が39.6%と5年前より2.7ポイント増加し、70～74歳を除く全ての年齢階級で上昇しており、学びに関する環境も関心も一定の水準にあるものと考えられる。

本市の市民大学は、アンケートなどにより市民ニーズを取り入れながら、様々な内容の講座を行っているが、正式名称を「横須賀市市民大学」とし、「横須賀」の冠をいただいていることから分かるように、「横須賀」という個性、ローカル性を大切にしている。

特に令和4年度は、NHK大河ドラマ「鎌倉殿の13人」に、三浦義澄、三浦義村、和田義盛など、郷土にゆかりのある三浦一族や、本市内の寺院が有する仏像の作者である運慶が登場したこともあり、市民の郷土に関する関心が高まり、市民大学でも時機を捉えて関連講座を実施したことは既に述べたとおりである。

他にも、本市には海洋研究開発機構（JAMSTEC）、港湾空港技術研究所、神奈川県立保健福祉大学、防衛大学校といった特色のある研究機関や教育機関があり、過去にもこれらの機関の協力を得て、その特色を生かした講座を実施してきた。また、本市で活動をしているNPO法人や郷土史研究家等の方々のご協力も「横須賀ならでは」という色合いを出すことに役立っており、今後もこれらの機関や団体、市民との協力関係は継続して欲しい。

市民大学は、生涯学習センターの看板とも言える取組で、現在まで幅広く様々な内容の講座を提供してきた。本市の生涯学習施策の一環として実施していることもあり、低廉な受講料で良質な内容を揃え、市民にとって安心して参加できる最も身近な学びの場の一つと言える。しかし、学びの場としては、それ以

外にも様々なものがあり、市民大学だけで完結できるものでもない。

市民大学の受講者の学びのニーズに応えるには、市民大学での学びをきっかけに、より専門的だったり、実践的だったり、市民それぞれが求める様々な学びの場をつなぐ入口や道標としての役割も期待される。市民の学習相談に対応し、必要に応じて専門分野へつないでいく役割や、市民大学で学んだ成果を地域で活用したいという方には、活用方法のヒント、活用の場の紹介も必要となってくる。

そして、市民大学のこれからについて検討するに際しては、「受講者」の捉え方は現在受講している方だけに限定すべきではない。様々な理由で今は市民大学で学べない・学ばない人、市民大学につながっていない人は、すべて将来学びに来る可能性を持った「新たな層」であり、「将来の受講者」と捉えることができる。

どこで学ぶことができるのか、学びたいがどうしても分からない、学ばなければならないようになったなど、学びたい人が学びたいときにアクセスできるように、学びの入り口として、「横須賀には市民大学がある」ということを今以上に知っていただくことが必要である。

また、現在は市民大学につながっていない、関りをもたない方にもアピールすることを意識し、今はできないが、「いつか学びたくなったら」何か学んでみたいという方にも、市民大学は学びたくなったらいつでも学べ、その扉は市民の誰にでも開かれていますというメッセージを届け、記憶に残るようにすることは重要である。

横須賀市の市民大学が 50 年近くの歴史を持ち、時代に合わせて変化を続けてきたように、人も年齢を重ねて変化をしていく。今、市民大学に参加できない、参加していない市民も、「将来の受講者」という捉え方をしながら、学びたいときに、いつでも、どこでも、だれでもが学べる市民大学であるように、引き続き今後も変化を続ける「個人の要望」や「社会の要請」^{注9}をしっかりと見据え、本市の社会教育行政を充実させていくことに期待する。

資料1 社会教育委員名簿

(令和5年5月1日現在)

No	氏 名	区分	所 属 等
1	臼 井 護	社	田浦コミュニティセンター 利用グループ連絡協議会代表
2	浦 野 千 鶴	社	逸見コミュニティセンター 友の会連絡協議会代表
3	加 藤 春 樹	社	横須賀市老人クラブ連合会 会長
4	小 林 純 子	家	横須賀市母親クラブ連絡協議会会長
5	櫻 井 聡	社	横須賀市PTA協議会 会長
6	志 村 直 愛	識	東北芸術工科大学 教授
7	武 石 太一郎	学	小学校校長会代表
8	梨 本 加 菜	識	鎌倉女子大学 教授
9	八 矢 信 宏	学	中学校校長会代表
10	濱 田 恵 里	社	横須賀商工会議所議員
11	林 但	市	市民公募
12	蛭 田 道 春	識	大正大学 名誉教授
13	松 本 敬之介	社	横須賀市子ども会指導者協議会 事務局長
14	山 岸 雅 人	市	市民公募
15	渡 辺 孝 夫	市	市民公募

(50 音順)

(区分欄)

「市」…市民公募、「学」…学校教育関係者、「社」…社会教育関係者、「識」…学識経験者、
「家」…家庭教育の向上に資する活動の関係者

資料2 社会教育委員会議審議経過

年度	回	開催年月日	審 議 事 項 等
令和 4年度	第1回	令和4年6月28日	・ 令和4年度審議テーマについて検討
	第2回	令和4年10月20日	・ 令和4年度審議テーマについて検討
	小委員会	令和4年12月12日	・ 市民大学のあり方について
	第3回	令和4年12月27日	・ 市民大学のあり方について
	第4回	令和5年3月28日	・ 市民大学のあり方について
令和 5年度	小委員会	令和5年6月27日	・ 市民大学のあり方について
	第1回	令和5年7月7日	・ 市民大学のあり方について
	第2回	令和5年10月18日	・ 提言骨子案の検討
	小委員会	令和5年11月17日	・ 提言骨子案の検討
	第3回	令和5年12月25日	・ 提言案の検討
	小委員会	—	・ 電子メール利用にて対応
	第4回	令和6年3月28日	・ 提言案の最終校正

資料3 用語解説

注1【横須賀市生涯学習センター（愛称：まなびかん）】

生涯学習センター条例に基づき、市民に対し生涯学習の場及び機会を提供するために設置した施設で、平成13年1月4日に開館した。

平成18年度から指定管理者制度を導入し、指定管理事業として①生涯学習センター運営管理事業（貸館施設の運営管理など）、②市民大学事業（市民大学講座の企画・運営）、③文化・生涯学習情報収集提供事業（文化活動、生涯学習活動に関する情報収集と「まなびかんニュース」などによる提供、学習相談など）、④学習成果の地域活用事業（市民が講座講師として自ら講座を企画・運営して活動するための支援をする「ABCプラン」など、学習した成果の地域還元や活用を図る）の4つの事業を行っている。

その他にも指定管理者が自主事業として、ウェルシティコンサートや文化財講座、子供向けの将棋教室、中高年向けのスマホ教室やパソコン教室等、様々な行事を実施している。

また、平成28年には、事業内容や方法等に工夫を凝らし、地域住民の学習活動に大きく貢献しているとして、文部科学大臣より第68回優良公民館表彰を受けている。

注2【コミュニティセンター】

コミュニティセンター条例に基づき、平成20年度から、市民に自治活動の場の提供、実際生活に即する教育、学術及び文化に関する各種の事業の実施、市民の連帯、生活文化の振興及び福祉の増進を図り、魅力ある地域社会を形作っていくことを目的として設置している。本市の9行政センターに併設されていた旧公民館の流れを汲むものと、旧自治活動センターの流れを汲むものとがあり、令和6年3月末現在で分館等も含めて22館ある。生涯学習センターでの事業が市全域を対象とすることに比べ、より地元身近で地域性の高い事業を実施する特徴がある。

コミュニティセンターは教育委員会ではなく市長部局の所管となっているが、「教育委員会の権限に属する事務の一部を市民部長に委任する規則」により、定期講座や講演会などの学習機会の提供、学習情報の収集・提供など、旧公民館が担っていた社会教育機能を継承しており、毎年、社会教育委員会議にその活動報告を行っている。

注3【ジュニアカレッジ】

ジュニアカレッジは、米国の2年制の大学、日本では短期大学のことを指す用語である。本来の意味とは異なるが、市民大学では、子ども向けの講座を「子ども向け市民大学」ということを表すため、ジュニアカレッジと称している。

注4【郷土】

市民大学では、郷土関係の内容を扱う分野として地域学がある。動植物の分布や地質、歴史的な文化圏などは、必ずしも行政区域としての横須賀市と一致していないことも多い。そのため、市民大学の地域学では、「郷土」を採りあげた講座の場合、必ずしもその範囲を現在の横須賀市という行政区域内だけに限定せず、横須賀市を中心に、概ね三浦半島の範囲を「郷土」としてとらえる考え方をとっている。

注5【社会生活基本調査】

社会生活基本調査は、統計法に基づく基幹統計調査として、生活時間の配分や余暇時間における主な活動（学習・自己啓発・訓練、ボランティア活動、スポーツ、趣味・娯楽及び旅行・行楽）を調査し、国民の社会生活の実態を明らかにするための基礎資料を得ることを目的として5年ごとに実施している。調査の結果は、仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の推進、男女共同参画社会の形成など、国民の豊かな社会生活に関する各種行政施策に欠かすことのできない重要な資料となる（e-Stat 統計でみる日本 政府統計の総合窓口 社会教育基本調査より抜粋）。直近では令和3年に実施。

<https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&toukei=00200533>



注6【まなびかんニュース】

横須賀市生涯学習センターの指定管理者が毎月1回発行する、生涯学習に関連する情報の掲載紙。市内の行政センターや公共施設、京浜急行の駅などに配架している。生涯学習センターで行われる講座やイベントのほか、図書館、博物館、美術館、コミュニティセンターといった社会教育施設や、そのほかの生涯学習関連の講座やイベント、サークルの会員募集などを掲載している。

また、最終面には、パソコンやアプリケーションの少し役立つ使い方を紹介した「まなびかんニュースパソコン道場（まなパソ道場）」、横須賀や三浦半島の海にまつわる自然、文化、民俗、歴史を紹介した「横須賀と海」、横須賀ゆかりの三浦一族を紹介する「Café des 三浦一族」のような郷土理解を深める内容の記事を掲載してきた。紙媒体だけでなく、生涯学習センターのホームページにも掲載している。

注7【アクティブシニア】

明確な定義はないが、活動的で仕事や趣味など様々なことに意欲的という言葉通りアクティブな高齢者で、一般社団法人日本アクティブシニア協会によれ

ば、65 歳から 75 歳の前期高齢者世代と定義される。

注8【学習成果地域活用事業】

学習成果地域活用事業とは、市民が学習活動で身につけた様々な知識、経験、技術といった学習成果を、自分自身のために生かすとともに、地元などの多様な地域活動に生かすことを推進することを目的としている。先に述べた ABC プランもこの事業の取組みの一つである。

他にも Yokosuka まなび情報登録講師やサークル向けに、例えば効果的な情報発信のためのチラシの作り方や、自分たちの活動の様子をスマホで動画にアップする方法などのスキルアップ講座を実施したり、高校生や大学生を中心に地域をテーマにした創作ミュージカルを企画し、実際に発表公演をしたり、現在も継続して活動しているサークル発足のきっかけづくりを行ったりしてきた。

市民が自ら活動するためのきっかけづくりや、既に活動をしている方も含めて、「まなびかんまつり」のようなサークルや講師の学習成果、活動発表の場の提供、活動していくためのスキルアップの支援などを継続して行っている。

注9【社会の要請・個人の要望】

社会教育について規定している教育基本法第 12 条には、「個人の要望や社会の要請にこたえ、社会において行われる教育は、国及び地方公共団体によって奨励されなければならない。」とある。

社会教育における「個人の要望」とは、学習者個人の興味関心や課題意識に基づいて求められる「要求課題」とも言い換えることができ、例えば、趣味的、教養的な事柄に関する学習など、いわゆる「市民ニーズ」に基づくものと考えることができる。

また、「社会の要請」とは、個人を包摂する社会に関わるような公共的、社会的、現代的な課題等で、解決するために市民が学ぶ必要がある「必要課題」とも言い換えることができ、例えば、地域活性化や家庭教育支援、防災・減災、地球環境保全や戦争・平和、人権など、学ぶ必要性や緊急性が高いようなものが考えられる。

資料4 参考資料

(1) 令和4年度「第46回横須賀市市民大学講座のまとめ」

(横須賀市生涯学習センター指定管理者 公益財団法人横須賀市生涯学習財団)
横須賀市生涯学習センターホームページに掲載している。

【URL】 <https://manabikan.net/pdf/matome2022.pdf>



※《参考》生涯学習センタートップページ

【URL】 <https://manabikan.net/>



※アンケート部分のみ後段に抜粋

(2) 令和3年社会生活基本調査 生活時間及び生活行動に関する結果 結果の概要 (総務省統計局)

【URL】 <https://www.stat.go.jp/data/shakai/2021/pdf/gaiyoua.pdf>



※《参考》総務省統計局 令和3年社会教育基本調査

【URL】 <https://www.stat.go.jp/data/shakai/2021/gaiyou.html>



(3) 社会生活基本調査 調査結果 令和3年社会生活基本調査 神奈川県の結果 令和3年社会生活基本調査—神奈川県の概要 (神奈川県統計センター)

【URL】

https://www.pref.kanagawa.jp/documents/893/r3_shakaiseikatsugaiyou.pdf



※《参考》神奈川県統計センター 社会生活基本調査

【URL】 <https://www.pref.kanagawa.jp/docs/x6z/tc30/rodo/syakaicho.html>



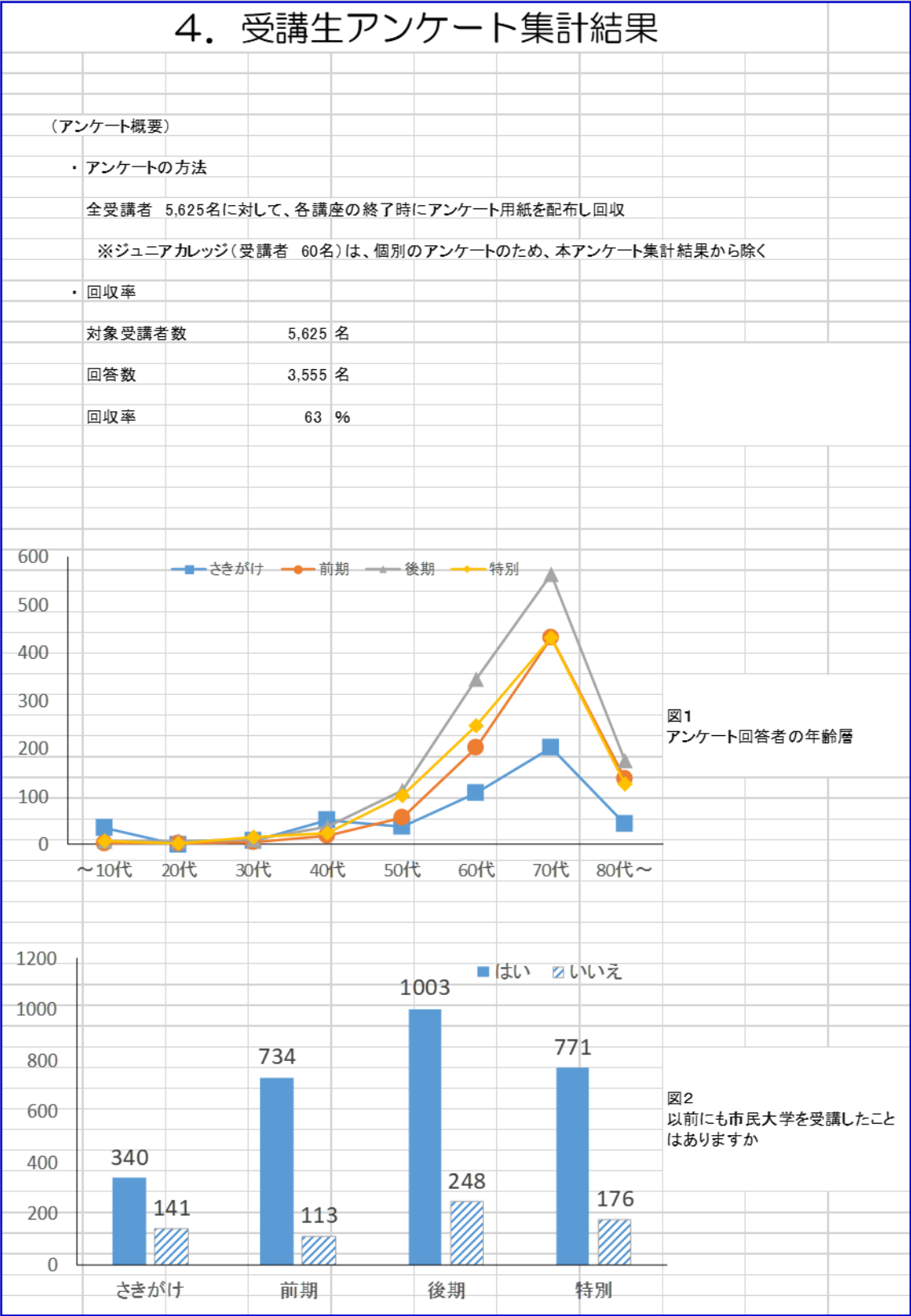
(4) 統計トピックス No.132「統計からみた我が国の高齢者」令和4年9月18日
(総務省統計局)

【URL】 <https://www.stat.go.jp/data/topics/pdf/topics132.pdf>



(5) 市民大学10年のまとめ抜粋(序文及び第Ⅰ章市民大学のまとめ1. 市民大学の開設)

(1) 令和4年度「第46回横須賀市市民大学講座のまとめ」よりアンケート集計結果の抜粋



☆性別						
	男	女	未記入	合計		
	1,858	1,670	27	3,555		
☆以前に市民大学を受講したことがありますか						
	はい	いいえ	未記入	合計		
	2,848	678	29	3,555		
☆市民大学を受講された 目的を教えてください(複数回答可)						
		さきがけ	前期	後期	特別	合計
仲間づくりのため		18	25	44	42	129
地域活動に役立てるため		22	18	33	35	108
就職や仕事に役立てるため		6	21	19	13	59
生きがいづくりのため		94	205	275	204	778
郷土の理解を深めるため		89	137	203	221	650
自己向上のため		257	503	738	460	1,958
講座内容に魅かれたため		366	676	1,004	678	2,724
☆市民大学を何によってお知りになりましたか(複数回答可)						
		さきがけ	前期	後期	特別	合計
まなびかんニュース		226	388	473	395	1,482
広報よこすか		108	157	256	188	709
募集要領		178	470	512	297	1,457
ポスター		50	31	130	78	289
友人・知人から		23	48	69	49	189
ホームページ		82	176	185	92	535
SNS		31	17	79	38	165
タウンニュース広告		-	-	122	-	122
☆本講座を通じて、受講前と意識や行動が変化した点を教えてください(複数回答可)						
		さきがけ	前期	後期	特別	合計
仲間づくりができた		12	35	49	27	123
地域活動に役立った		9	15	14	29	67
学習活動を続けたいと思った		116	341	473	265	1,195
仕事などに生かした		7	15	16	7	45
生きがいがあった		52	127	131	106	416
郷土への愛着が深まった		57	101	130	150	438
見識が広まった		374	668	983	658	2,683

☆各項目で、該当する点数に○をつけてください							
さがしげ講座	点数	受講満足度	講師	理解度	受講環境	職員	
	0点	0	0	0	0	0	0
	10点	0	0	0	0	0	0
	20点	0	0	0	0	0	0
	30点	0	0	2	0	1	3
	40点	1	1	0	0	2	4
	50点	18	14	23	32	34	121
	60点	13	5	20	16	18	72
	70点	36	25	45	54	40	200
	80点	111	101	119	111	111	333
	90点	86	91	98	90	81	410
	100点	199	229	157	161	179	825
							2,324
前期講座	点数	受講満足度	講師	理解度	受講環境	職員	
	0点	1	0	0	0	0	1
	10点	1	3	2	0	0	6
	20点	2	2	4	0	0	8
	30点	11	5	14	1	0	31
	40点	9	5	11	1	2	26
	50点	38	42	47	65	57	249
	60点	30	22	57	24	21	134
	70点	101	73	156	98	80	383
	80点	229	199	259	239	237	1,103
	90点	191	209	168	203	198	909
	100点	229	282	123	210	241	1,053
							7,212
後期講座	点数	受講満足度	講師	理解度	受講環境	職員	
	0点	1	2	1	0	0	4
	10点	2	3	3	2	0	10
	20点	5	5	6	0	0	16
	30点	14	13	21	5	0	53
	40点	20	14	29	3	3	69
	50点	80	76	118	116	119	389
	60点	55	47	94	48	48	297
	70点	164	129	190	149	118	730
	80点	317	275	338	365	343	1,638
	90点	265	292	233	269	259	1,318
	100点	306	372	194	271	339	1,432
							9,071
特別講座	点数	受講満足度	講師	理解度	受講環境	職員	
	0点	1	2	1	1	1	6
	10点	1	0	0	0	1	2
	20点	1	1	0	2	1	5
	30点	1	2	1	3	3	10
	40点	2	0	1	7	2	12
	50点	25	19	39	43	60	180
	60点	20	21	25	28	28	122
	70点	69	47	105	85	65	271
	80点	221	191	228	240	224	1,104
	90点	244	242	259	227	216	1,158
	100点	331	394	256	285	319	1,585
							7,251

☆今後、取り上げてほしい講座内容について(複数回答可)

	さがしけ	前期	後期	特別	合計
郷土	109	232	333	279	953
植物・動物	120	146	195	148	609
天文学・地学	89	157	242	167	655
政治・経済	54	146	247	144	591
文学・哲学	111	254	304	172	841
心理学・宗教学	82	150	244	120	596
歴史	183	434	576	477	1,670
芸術	163	267	391	220	1,041
伝統文化	79	185	271	185	720
生活・健康	108	178	303	163	752
産業・技術	67	126	151	109	453
スポーツ	70	71	112	75	328
その他	19	26	32	22	99
未記入	49	25	38	59	171

聴講生制度・まなびポイント制度

令和４年度 聴講生制度 参加人数 256名

まなびポイント制度 (令和5年3月31日現在)

ステップアップ賞 (50ポイント)	662名
シルバー受講生 (100ポイント)	378名
ゴールド受講生 (200ポイント)	116名
ダイヤモンド受講生 (500ポイント)	5名
プラチナ受講生 (1000ポイント)	1名

【質問用紙】

◇下記の①～⑤の項目で、該当する点数の部分で○で囲んでください。

																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														</
--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----

				不満足		←		普通		→		満足		
① 受講満足度				0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100
				悪い		←		普通		→				良い
② 講師				0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100
				理解できなかった		←		普通		→				理解できた
③ 内容の理解度				0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100
				悪い		←		普通		→				良い
④ 受講環境				0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100
				悪い		←		普通		→				良い
⑤ 職員				0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100

◇各質問に対し、あてはまるものを○で囲んでください

1、性別

- ① 女性 ② 男性

2、年齢

- ① ～10代 ② 20代 ③ 30代 ④ 40代 ⑤ 50代
⑥ 60代 ⑦ 70代 ⑧ 80代～

3、以前に市民大学を受講したことがありますか？

- ① はい ② いいえ

4、市民大学を受講された目的を教えてください(複数回答可)

- ① 仲間づくりのため ② 地域活動に役立てるため ③ 就職や仕事に役立てるため
④ 生きがいづくりのため ⑤ 郷土の理解を深めるため ⑥ 自己向上のため
⑦ 講座内容に魅かれたため
⑧ その他具体的にありましたら、お書きください

① まなびかんニュース		② 広報よこすか			
③ 募集要領		④ ポスター			
⑤ 友人・知人から		⑥ まなびかんのホームページ			
⑦ SNS(ツイッター等)		⑧ その他〔			〕

① 仲間づくりができた	② 地域活動に役立った	③ 学習活動を続けたいと思った
④ 仕事などに生かせた	⑤ 生きがいができた	⑥ 郷土への愛着が深まった
⑦ 見識が広まった		
⑧ その他〔		

① 郷土		② 植物・動物		③ 天文学・地学		
④ 政治・経済		⑤ 文学・哲学		⑥ 心理学・宗教学		
⑦ 歴史		⑧ 芸術		⑨ 伝統文化		
⑩ 生活・健康		⑪ 産業・技術		⑫ スポーツ		
⑬ その他〔						

[illegible]

46

5. 講座の終了にあたって

皆さまからいただいたアンケートのご意見を一部、抜粋して掲載いたします。今後の講座企画・運営に参考にしていきます。

【さきがけ講座】

- ・すばらしいヴァイオリン演奏と講師とのやりとり、楽しく非日常のひと時をすごさせてもらい、ありがとうございました。横須賀出身の音楽家がユーモアたっぷりに講義と演奏をして下さって楽しい幸せな気持ちになりました。（「よこすかの音楽家によるレクチャーコンサート」）
- ・先生のお話を今日、初めて伺いましたが、とても分かりやすく、今までほとんど何も考えず、ぼーと絵を見ていましたが、エジプトからとてもわかりやすく、順を追っての展開は興味深かったです。是非連続講座も聞きたいと思いました。（「初心者からわかる教養としての西洋美術史」）
- ・もうひとつの浮世絵とは？ テーマに興味を持ち受講しました。まったく想像しなかった内容でさらに浮世絵に触れてゆきたいと思います。新たな知識を得、関連書など読んでみようかと思います。わかりやすくご説明いただきありがとうございました。彫師、摺師の話も聞いてみたいと思います。（「もうひとつの浮世絵」）
- ・いつ大きな災害が起きるか分からない時代の中、今日、講座を受けて「アウトドアグッズ」をそなえて（そなわる）、身近な人に伝えたりしていきたいと思います。（「アウトドア×防災で生きる力を！」）
- ・今回のように子ども向けの内容での講座があると（様々な分野で）子供と一緒に参加しやすいし、内容もおもしろく、理解しやすいです。（「京急電車のふしぎを知ろう」）
- ・自分の人生の歴史の中で切っても切れない京急。誇りにも思え、深く知りたいと思っています。講演の話も良く理解出来、これからも楽しみに聴講したいです。（「京急線と駅の歴史」）
- ・横須賀市中心部の昔の地図はとても興味深かった。どうもありがとうございました。（「陽光と潮騒の文学・入門」）

【前期講座】

- ・とても有名な先生の講義を受けることができとても嬉しかったです。あまり歴史に詳しくないのですが、先生のお話はとてもわかりやすく楽しかったです。三浦半島の歴史にも興味がわきとてもよかったです。（「鎌倉殿と13人の有力御家人」）
- ・毎回とても楽しみです。お話もわかりやすく、浦賀の様子を知ることができよかったです。（「浦賀学事始め」）
- ・陽光と潮騒の文学、大変興味深く拝聴しました。各々の作家の育った環境、人生観が味わえた。地域性から現実性を感じられて楽しく、また読書欲も出てきた。今後の糧となる。読書の指標を得た。（「陽光と潮騒の文学」）
- ・身近に見るべきものがこんなにあるとは。一つ一つ見に行きます。ありがとうございました。（「近現代の横須賀で活躍した建築家と作品・系譜 ★オンライン併用講座★」）
- ・講師が素晴らしい写真を用意してくださっているが、席が後方だと見えにくい。コロナ対策で仕方ないけれど、もっと近くで見たいと思った。（「すごいぞ横須賀の海！」）
- ・いろいろなジャンルの音楽家の演奏とさまざまな知識を教えていただき、プロの方は本当に上手で感動しました。もっと広めてこのすばらしさをいろんな人に知ってもらえたらよいです。即興での作曲は、作曲の仕方を初めて知り、すごいなと思いました。（「さまざまな楽器の音色とその魅力」）
- ・長い期間の受講になりましたが、今まで知らなかったことを詳しく教えていただき、改めて聖書を手に取ってみようという気持ちになりました。こちらで解説していただいた作品を今後どこかで鑑賞する時には、内容がよく理解できるだろうと思います。（「名画で読み解く聖書物語」）

・ビートルズの講座大変良かったです。先生のピアノ伴奏やビートルズのビデオを見たりと楽しかったです。私は音符が読めないで、そこが残念でした。（「ビートルズ音楽概論」）	
・いつも素晴らしい音楽を聴くことができて楽しい講座でした。先生の声が少し聞き取りにくいのが残念でした。（「シューマンの生涯と音楽」）	
・お家ヨガを学び、体験できて、日常生活に取り入れて日々の健康に役立てられました。気をつけて姿勢を正したり、朝・昼・夜のメリハリができたりと、今までより良い日常をおくれている気がします。続編を希望します。（「やさしいお家ヨガ」）	
・70才を超えると、何となく不調になるときが多くなってきます。病気になる前に薬膳の食生活で未然に予防できたらと思います。（「季節の薬膳 冬から春へ向けての食養生法」）	
・スクリーンと実際の目の前のモデルさんで色が違いすぎる（スクリーンが白とびしている）講師の話すスピードが速すぎる。（「コーディネートでアンチエイジング」）	
・本を読んだり、ビデオを見たりするより対面の力は大きいと実感しました。心にストレートに響くのです。講師の方の力量もその中には含まれますが、とても楽しかったです。（「断捨離*講座 入門～実践編」）	
・最初は難しい講座かなと思いましたが、回を重ねるごとになるほどなあと感じたり。奥が深いんだなあと思いました。（「モチベーションの心理学」）	
・毎回楽しく聴かせていただきました。ありがとうございました。哲学は自分の生き方に関わる部分もあるのでいろいろ考えさせられることが多くたけになりました。本講座をまた取り上げていただくことを期待しています。（「はじめての哲学2」）	
・資料、講義ともに大変丁寧で、南極北極への関心が高まりました。石、オーロラ、雪、気候等、テーマ毎の深掘りも理解の助けになりました。多彩な講義の内容で、いつも楽しみです。今後も継続受講したい講義も多数あります。（「知られざる南極大陸の魅力」）	
・星について知識がなかったので受講した。毎回カラーの資料で今後季節ごとに空を見るときに使える。ありがとうございました。紹介された本や映画もおもしろかった。（「横須賀星空散歩」）	
・とても興味深くおもしろい講座でした。もっと回数があっても良かったです。質問にも熱心に答えてくださり、理解が深まりました。毎回盛りだくさんでついていくのがやっとだったので、テキストをちゃんと復習しようと思います。（「気象予報士によるお天気講座」）	
・自分の足であちこち歩くのが好きで、旧東海道などを歩きました。いろいろ地名があり、地形も様々で、地図地形に興味が増したので受講させていただきました。楽しかったです。3回では物足りないの、続編を希望します。（「地図でたどる地形と地名」）	
・コロナ禍で美術館等の鑑賞がしにくい中、所蔵品を紹介・解説いただきとても良かった。講師陣が素晴らしい、感謝しています。（「世界を魅了する日本の美術・工芸」）	
・あたりまえに使っていた日本語について、改めて考えさせられた。この頃、文学、古典が少ないように思われるので、お願いしたい。（「日本語を再発見しよう」）	
・歴史上の表面に現れない江戸の町の様子が分かり、良かった。資料をもとにわかりやすい解説で理解できた。（「大江戸まちづくり」）	
・写真を許可なく外部に出さないという条件付で受講には写真をじっくり拝見する機会を与えてほしい。短時間で多くの写真が見れて楽しかったが、ここはもっとよく見たいという写真がたくさんあった。せっかくの受講なのでぜひお願いします。写真をもう一度拝見する機会を切に願います。（「写真で振り返る横須賀」）	
・『琉球国』（沖縄）の歴史、文化をもっと知りたくなりました。書籍や映画をもっとお知らせいただけたらありがたいです。プレゼン画面文字について、後部机上からは見えにくいので、良案検討をお願いします。（「琉球・沖縄の歴史と文化」）	
・とても素晴らしい講義内容でした。とりわけ村井先生の講義は、論理展開がさわたり、圧巻でした。学生時代に教わった頃と遜色なく感激しました。ありがとうございました。（「国際関係論2022」）	
・英国にはコロナ禍の前に観光で訪れました。ビクトリア&アルバート博物館等、今回の講座を受けていたらもっと感慨深い旅になったことでしょう。知識を得ることは、感動と喜びにつながるものですね。（「女王陛下を通して学ぶ英国の近現代史」）	
・今回初めて市民大学に参加しました、先生が分かりやすくお話して下さり、興味深い内容で面白いです。フランス語講座の中級レベルがあれば参加したいです。（「フランス語入門&フランス文化」）	

・観光で行ったことがありましたが、歴史の奥深さに難しく感じ、新しく知ったことがたくさんありました。いろんな時代（ヒットタイト、ビザンティン、オスマンなど）の遺跡が江添先生のお話で興味深く又自分でも勉強を続けたいと思っています。（「トルコの歴史を巡る8日間の旅 ★オンライン併用講座★」） ・中国の歴史の一端を知ることが出来感謝します。今の中国の考え方をこの時代の思想は脈々と根底には流れているのでしょうか。（「三国志 魅力あふれるヒーローたち ★オンライン併用講座★」） ・三浦一族について考古学的なお話がきけて良かったと思います。（「三浦一族と横須賀」） ・古道を歩くのが発見があり、新鮮でした。いろいろ歩いてみたいと思いました。（「いざ出陣！三浦一族ゆかりの地をめぐる」） ・夜間講座(18:30から)であつたので、仕事帰りに受講することができました。（「TOEIC600点目標クラス」）	
【特別講座】 ・とてもわかりやすい説明、楽しく受講できた 金沢文庫の展示にも行きたいと思った分りやすく受講出来ました事に感謝です 横須賀美術館とテレビ放映を見ていましたので楽しく聞くことが出来ました。（「仏像に親しむ『運慶 鎌倉幕府と三浦一族』展への誇り」） ・日本の城の見方が分り、建て方などとても工夫され、考えられていることがわかりました。実際に見る時に、見方が変わり楽しくなりそうです。（「日本の城のキホンを知る」） ・楽しく栄養を学ばせていただきました。日々の食生活に生かしたいと思います。（「世界が注目！日本人の食と健康寿命」） ・大変学びになりました。息子と一緒に参加させて頂き、親子で将来を考えるきっかけとなりました。（「横須賀から世界へ！eスポーツの魅力」） ・勉強したいことが、いまさらながら出てきました。すべての講座に参加できたらと思います。（「星の色から探る宇宙」） ・認知症についての内容が豊かでよかったです。参考にして元気に生活していきたいと思います。（「ウィズコロナ時代における認知症予防」） ・先生のお話はとても分りやすく、私のような初心者でもとても楽しく受講できました。ぜひとも、まだまだ紹介していただける事があると思いますので楽しみに待っております。（「中世の仏教書に眼福をえた珍しい記事の数々」） ・中身の濃い内容でありありがとうございました。転倒しないよう努力したいと思います。ありがとうございました。（「骨折予防対策としての運動の重要性」） ・懐かしい写真や説明で楽しく学ばせていただきました。昔を思い出したり、小さな旅をした気がしました。（「京急線と駅の歴史－「県立大学」～「浦賀・三崎口」編－」） ・本講座を通じて徳川家康の人となりを知ることが出来大変有益で勉強になりました。（「徳川家康を考える」） ・大変勉強になりました。中世のムラをよく理解できました。みごとな講義でした！（「日本中世の職業」） ・浄楽寺の運慶を巡る楽しい謎解き、ありがとうございました。でも、また謎が増えてしまいました。（「運慶と浄楽寺の仏像をよみとく」） ・一生勉強！！学び続ける事の大切さを思います。横須賀は市民大学という学びの場がある事に感謝しています。今回のすかいいとく企画はわかりやすかったです。ボランティアの皆さんにご苦労様でした。今後もこのような企画楽しみにしています。ミニコンサートは心いやされました。（「もって知ってよ 横須賀市 すかいいとく」） ・今回は、子連れでの参加ができ、とてもありがたかったです。子どもを預けて…だと、ハードルが高く、参加できなかったと思います。コロナ禍で、親子での交流の機会が減っているため、このような機会を、これからも作っていただけたら嬉しいです。（「食べてダベってコミュUP」）	

(5) 市民大学の10年のあゆみ より抜粋

序

横須賀市市民大学長

横須賀市長 横 山 和 夫

市民大学も今年度で10周年を迎えました。今日の隆盛を心より嬉しく思っていますし、生みの親として手塩にかけた子供がここまで大きく立派になったかと思うと感無量の感があります。

昭和50年代以降、我が国の経済的、社会的情勢の変化は、まことに著しく、生活様式や生活意識にも大きな変革をもたらしてきました。それに伴いその変化に対応出来る適応性、創造性が要求されるため、必然的に社会教育に対する期待も増大してきたのです。この様な時代には、常にたゆみない学習を継続していなければ、世の中の趨勢に遅れを取るといった観さえあります。そこで、本市では、生涯教育を確立していく方針に沿って市民大学を発足させたのです。

そもそも
抑、当大学の発想は、成人学校の受講生とのテレビ対談の折、より高度な講座をとの強い要望が出され、教育委員会におけるそれまでの実績と私の市政全体のプランを併せて発足させたものです。

当大学の終極の目的は、文化創造を生みだす精神的風土の醸成にあります。地域文化の創造は単に知識の習得だけでは出来ず、一定の目的を持って意識的に創り出す活動がなければなりません。当大学で習得した知識や思考は単に追体験にしかすぎないのです。その追体験を自己に、又他になにを生みだすかが課題であり、その成果が地域の文化にどれだけ係わり得るかが重要となるのです。そこで事後の自主的な活動を一層促進し、当大学で培った知識や思考を地域に活用していただくために努力してきたのです。

ここに市民大学10周年記念事業の一つである「市民大学10年のあゆみ」を発刊するにあたり、当大学をここまで育てていただいた講師の先生方と受講生の皆さんに学長として衷心よりお礼を申し上げます。

今後は、皆さんの学習意欲をより一層喚起し個性と創造性を十分に発揮できるための条件整備を推進していく所存です。又私も心を引き締めて頑張る一方、ここまでの積み重ねを基盤として、また将来を展望しながら皆さんの御期待にこたえる決意であります。

第Ⅰ章 市民大学のあゆみ

1. 市民大学の開設

近年の経済的、社会的情勢の変化は、まことに著しく生活様式や生活意識にも大きな変革をもたらしている。それに伴い、その変化に対応できるため創造性、適応性が要求されるため、必然的に生涯教育に対する期待も増大してきた。そこで、昭和 52 年、本市でも生涯教育の重要性に鑑み、その一環として市民大学を開設した。

社会教育の事業は、その性格上初歩的、入門編的な講座が多く、より高度なものをとの要望が以前よりあった。そのため、公民館や社会教育課で実施した成人学校、婦人学級、成人学級、家庭教育学級、高齢者教室等の修了者を対象にした市民大学の早期開設を考えていた。その中で、市長より市民大学開設の指示があり、昭和 52 年度より、市民性の涵養、人間性の回復、自己能力の再開発、生活の向上及びコミュニケーションを図るため、継続的、系統的、専門的な学習の機会と場を提供することを目的とした市民大学を開設するはこびになった。

市民大学は「大学」と名が付いた以上、真理の探求を目指すものであり、内容は短大程度として長期にわたり専門的な学習ができる学級形式のコース学習とコース学習に参加出来ない人を対象にした講演会形式の大集会学習の 2 形式に分け、特にコース学習は教室のスペース、学級運営を考慮し、定員 60 名に絞り、3 コースを設置した。当時成人学校で少々高度な講座を開設すれば必ず定員割れしていたのでどの程度の応募があるか不安であったが、いざ蓋を開けてみると 2～4 倍の申し込みがあり、喜びというよりむしろ困惑したのが現状であった。又、受講生の学習態度も素晴らしく、脱落者も少なく、その旺盛な学習意欲には驚かされた。



いつでも、どこでも、だれでも学べる社会の実現

まなぶ・くらし・たのしむ 横須賀市市民大学

発行年月 令和6年（2024年）3月

発行元 横須賀市社会教育委員会議
（事務局 教育委員会事務局教育総務部生涯学習課）
〒238-8550 横須賀市小川町 11 番地
TEL:046-822-9782 FAX:046-822-6849
E-mail:se-bes@city.yokosuka.kanagawa.jp